

自分の思いが 伝わる言葉こそ 美しい



J-POWER 社長

北村 雅 良

日本語学者・杏林大学外国語学部教授

金田一秀穂

「話す、聞く」では世界でも指折りの易しい言語でありながら、
「読む、書く」となると比類なき難解な言語に豹変する「ニッポン語」。
易しくて難しいこの国の言葉を、世界の人々に広めることが
金田一秀穂氏のライフワークである。
その活動を通じて得られた日本語の魅力、時代の流れに伴う日本語の変化、
そして言葉が持つ力について伺った。

易しくもあり、
難しくもある日本語

北村 金田一家は、日本語学の権威が3代も続いて、それが「家業」であるかのように世間は受けとめていますが、若かりし日の秀穂先生は、さほど思い入れはなかったそうですね。

金田一 血筋でそのように見られるのが嫌だという気持ちがどこかにあって、日本語関係の仕事に就くつもりはなかったのです。大学では心理学を勉強したのですが、それで食べていくとなると心許ない。「そうだ、外国へ行こう」と思い立って道を探るうちに「日本語の教師はどうか」と父から勧められ、それに乗ったような次第です。

北村 外国へ出ようとした算段が、日本語教育の第一人者への道を拓いたのだから、おもしろいものですね。

金田一 日本語を教えるなら易しかろうと思って始めてみたものの、ふだん無自覚に使っている言葉を文法など話法のレベルに置き換え、日本語を知らない人にそれをどう伝えればいいのか。思い悩み始めた頃、ある日本語教授法の先生に出会って「あれ、日本語ってこんなにロジカルに、しかもクリアにできていたのか」

比べると、中国語、日本語、英語の順に難しくなり、韓国語はほぼ日本語と同じだと思います。英文法が難しいのは例外が多すぎるからで、例えば「行く」という動詞が「go→went→gone」と時制変化したりして、なんてひねくれた言葉だろうと思います。

北村 不規則な変化は丸暗記するしかないですからね。どんな動詞でも「ed」をつけたら過去形であれば、覚えるのがどんなに楽だったか。

金田一 その点、日本語にはほとんど例外がありませんから、基本構造さえ覚えてしまえばそんなに困らない。大変なのは「読み書き」の習得で、これは世界的にもかなり難しい部類に入ります。ですから日本語を1週間特訓すれば、かなり話せるようになりますが、読み書きまでは無理な相談です。

団塊の世代と若者と
どちらの敬語が正しいか

北村 中国系や韓国系の人は、共通して言葉の根っこに「漢字」があるので、まだ日本語習得のハードルが低いのではないかと……。

金田一 それはご指摘の通りです。

KITAMURA MASAYOSHI



また漢字がベースの言葉には他言語には見られない魅力があります。漢字が読めると、孔子の『論語』でも司馬遷の『史記』でも、あらかた誰でも判読できるわけですから。それに比べて、ソクラテスやキリストについて古代ギリシャ語や古代ヘブライ語で書かれた文献を読める人が、現代ヨーロッパに何人いると思いますか。

北村 確かにそうですね。われわれは漢字文明の大いなる恩恵に浴しています。

金田一 漢字を習いつつ、一字一句に付随する様々な事柄を学びますか

KINDAICHI HIDEHO



金田一 秀穂(きんだいち・ひでほ)

1953年東京都生まれ。上智大学文学部心理学科卒業。東京外国語大学大学院博士課程修了。中国大連外語学院、コロンビア大学などで日本語を教え、ハーバード大学客員研究員を経て、杏林大学外国語学部教授。専門は日本語教育、言語行動、意味論。インドネシア、ミャンマー、ベトナムなどで日本語教師への指導も行う。



『金田一家、日本語百年のひみつ』(2014年、朝日新聞出版)では祖父・京助氏、父・春彦氏に続く日本語研究者3代目の秀穂氏が、言葉の謎に分け入ってその変化や揺れを探る。

と気づかされました。「案外おもしろい、それならば」と日本語教師の看板を掲げたら、うまくいっちゃいました(笑)。

北村 実は、私の妻も日本語教師をしておりまして、かれこれ25年ほど日本語学校で、海外からの留学生に大学に入るための日本語を教えたり、日本駐在のビジネスマン向けに個人レッスンをしています。それで、イロハのイから教えると大概の生徒は「日本の言葉は難しい」と悩むらしいのですが、本当のところはどうなんでしょうか。

金田一 他の言語と比べたら易しい部類に入ると私は思っています。少なくとも発音は、音の種類が圧倒的に少ないので非常に易しい。例えば、英語の「R」と「L」や、韓国語の「ha」と「kha」といった音の区別に日本人は大変苦労させられますが、外国人が日本語を習得する場合はハンディが少ない。だから、しゃべることに関しては短期間でものにする外国人が珍しくありません。

北村 モンゴル出身の力士のように、日本で暮らすうちにものすごく上達して、日本人の発音と遜色ない人が多い気がします。

金田一 ところが、文法の難易度で

らね。ただ、私でさえ確信が持てないのは日本の「敬語」の使い分け……これがまったくもって難しい。

北村 最近の若者は敬語を知らないとか、言葉遣いが乱れているとか、年長者としてはつい口にしたくなります。

金田一 私の見立てはむしろ逆です。敬語の使い方が一番お粗末なのは団塊の世代で、30〜40代の人のほうがまだ要領を得ています。なぜなら、すんなり就職できた世代は必死に敬語を学んだ経験がないのに対して、就職氷河期をくぐり抜けた世代は面接対策で頭に叩き込んだ敬語が身に染みついていますから。

北村 敬語が社会人の必須項目であるとしても、丁寧すぎるのもいかなものかと思います。会議などで資料を示しながら「ここにこのように書かせていただいておりますが……」などと説明しだすと、さらっと「これをご覧ください」で済むだろうと言いたくなります。

金田一 企業社会に限らず、昨今、その手の過剰敬語が世間に蔓延しています。例えば、電車の車内アナウンスは物言いがやたらに丁寧ですが、大して意味のあることを言っている気がしません。病院では「患者さま」に祭り上げられて気分がいいという

より、医療過誤に備えて先手を打っておくのかと、こちらが腹を探りたくなります。全部が全部とは言いませんが、上っ面を飾り立てる言葉は美しくないし、敬語の使い方としてふさわしいものでもありません。

北村 一時期、妻が教え子たちを家へ招くことがあって、中国や韓国の留学生は行儀もよく、ちゃんと敬語を話すので感心しました。うちの息子たちの言葉遣いとの対比で、立派な青年たちに見えました。

金田 一 彼らが敬語を知りすぎていることの効用かもしれません。特に中国語には基本的に「です、ます」表現がないので、数少ない語彙から、精一杯の敬意を表したかったのでしょう。自分がへりくだることで相手を持ち上げようとして敬語を使うと、かえって関係がぎくしゃくします。そうではなくて、敬語を使いこなすことで、その人の背景にある教養や品性をそれとなく相手に伝える——つまり「自分をどう見せるか」が、敬語本来の役目の一つです。

人と人が心を通わせ それから言葉の出番

北村 Jパワーも海外での仕事が進

動作までも全部ひつくるめてのコミュニケーションなんです。一説には、記号言語で相手に伝わるのは3割で、あとの7割は言葉以外の要素によると言われています。

北村 語学が多少苦手でも、まずは誠心誠意しゃべることですね。そうすれば、相手も「あなたの言いたい気持ちには分かった」となりますからね。

金田 一 言葉数はそんなに要らないし、自分の思いをメールや手紙の記号言語に託すくらいなら、直接会って話をして、一緒に飯でも食ったほうが心を通わせられることが多いのです。日本語教師がこんなことを言うとは本末転倒かもしれません(笑)。
北村 設計や開発のようなエンジニアの世界では、数式やグラフを使って説明すれば、下手な英語でも隣く間に通じ合うそうです。

金田 一 人と人が出会い、顔を見合わせ、気心を通わせる。言葉の出番はそれからだという気がしています。
北村 秀穂先生の教え子たちが、今まさに英語が世界の共通語になろうとする中、あえて日本語を選ぶのは何故でしょう。

金田 一 英語の強みの背景にあるのは英語圏の圧倒的な経済力です。かつては「経済大国ニッポン」にあや

語学が苦手でも誠心誠意しゃべる。
すると「気持ちには分かった」となります。

KITAMURA MASAYOSHI

言葉だけでなく声も、表情も、動作も
全部がコミュニケーションなのです。

KINDAICHI HIDEHO

んで、日本語の通じない相手方とコミュニケーションを図る場面が増えています。創立から60年以上、日本全国で電気をつくって需要家の方々に送り届ける仕事を行ってきましたが、その技術やノウハウを発展途上国などに提供する仕事も50年以上手掛けてきて、それぞれの現場で「言葉の壁」に立ち向かってきたという経緯があります。

金田 一 海外で電力に関する技術コンサルタントのようなことをされているのですか。

北村 はい。最近ではコンサルティング事業に加え、発電プロジェクトに参画する海外発電事業も積極的に展開しています。海外での仕事でおもしろいのは、現地の方との折衝において現地語を使うかということ、そうとは限らずやはり英語が多いこと。タフな交渉においても決して流暢とは言えない英語で直談判をして、案外それがよく通じるという話をよく耳にします。

金田 一 身振り手振りを交えた「ジャパニッシュ」で押し切れてしまう場面もあると。私たちのしゃべる言葉は「記号言語」といって、音の組み合わせで意味や意思を伝えるのですが、実際には話す人の声とか表情、

かつて日本語がもてはやされたものですが、今日それは中国語に取って代わられつつあります。今もアジアの人は日本での就職やビジネスに備えて習いに来ますが、欧米の人も含めて近頃目立つのは、日本のアニメや漫画などの文化を、原語で知りたいという人たちです。

北村 やはりそうですか。いきなり『源氏物語』が読みたくて来る人は少ないでしょうけれども、日本の文化に共感を抱いてくれるのはよいことです。

金田 一 それでいいじゃないかと私は思います。アニメだけでなく和食がブームになったり、伝統工芸の職人技が注目されたりするうちに、日本がゆつくり世界に染み込んでいき、いつしか「なくてはならない存在」になる。そういうプロセスで日本語の学び手が増えてくれたほうが、経済力の魅力で学ばれるより、よほど健全なのではないでしょうか。

年長者に耳障りな 若者言葉も「美しい」

北村 「若者言葉」に関して伺いたいのですが、専門家のお立場からすれば、日本語がここまで乱れていいのかと、

さぞや憂えておられると思いきや、そうではないそうです。

金田 一 私が聞いても、若者が何を言っているのか分からないのは同じです。けれども、言葉というのは誰のものでもないわけで、北村さんの日本語、学生の日本語、私の日本語とそれぞれにあつて、どれがいいとかダメとかは言えないと思います。年配者には耳障りな若者言葉も、話している当事者にはきつと「美しい」のです。

北村 若者は、ものすごく縮めてものを言うでしょう。「うざい、きもい」程度ならまだ察しもありますが、原形もとどめない省略語にはなかなかついていけません。

金田 一 「ビフテキ」とか「うな丼」のように縮めて言うのは古来からの風習で、防ぎようがありません。また、若者言葉は基本的に「仲間言葉」ですから、そのグループ内で流通している分には何も問題はないのです。仲間言葉は「パワー」の会社内にもあるはずで、専門用語を省略して呼び合うことが、ただ便利だけでなく、仲間意識を高めることにも役立っていると思います。

北村 社員間だけで通じる符丁の類いは無数にあります。確かにチーム

したパワーを引き出せるのでしょうか。

金田 一 そんな魔法の呪文があれば私も知りたいですけども、一つ言えるとするば、何か大事な決断や決定を伝える前に、お互いの共感とか、共通の理解を深めておくことです。電気をつくり送る仕事がどういうものであるか、基本のところを全員が深く承知していれば、多くをしゃべらなくても気持ちちは伝わるはず。す。

北村 結局、心が通じないと人は動かないということですね。いくら大層な演説をぶつてみても、空語を並べたのでは誰も奮い立ちません。

J パワーが産声を上げて60年以上経ちますが、当時に比べ社会は豊かになり、当社の技術も向上し、手掛ける仕事もレベルアップしている。しかし、会社の先輩が磨き上げてきた、J パワーの心や魂は何一つ変わらない。その「J パワー・スピリット」を社員1人ひとりが継承し、守り育てていかねばならないということです。

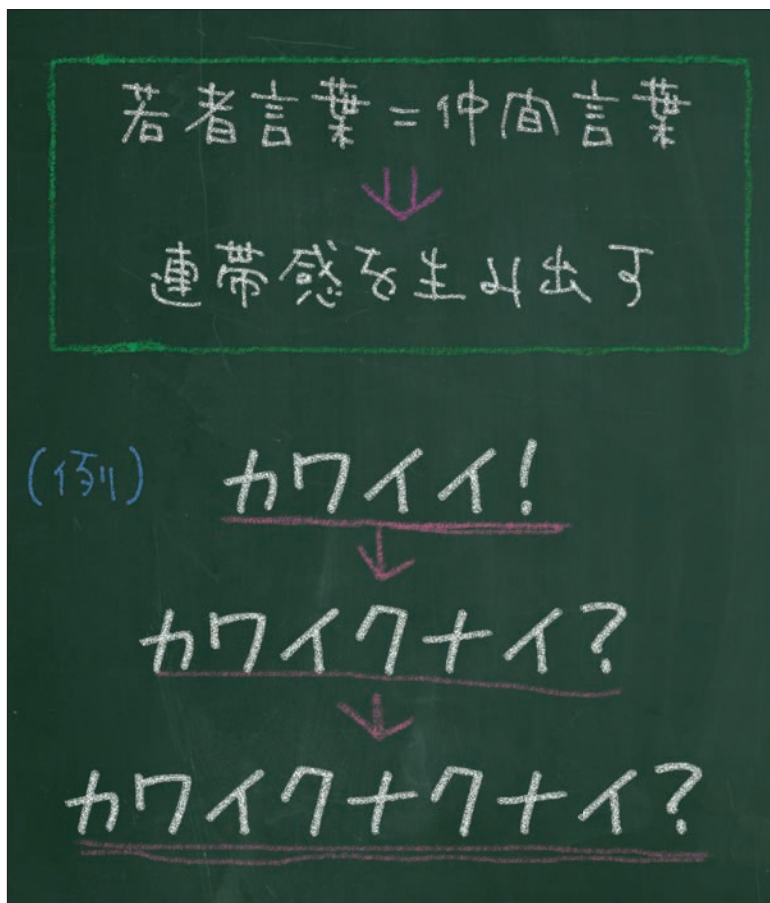
金田 一 例えば、国を背負って立つような人物が、事務方の用意した原稿を朗々と読み上げて、少しも心に響いてきません。聞かされる側には、それが肉声か否か、本心から語られている言葉かどうかが分かつて

の和や結束を促しているかもしれない。

金田 一 仲間言葉に難があるとすれば、誰彼かまわずに使って相手に不愉快な思いをさせてしまう場合です。年配者に向かって若者言葉をぶつけ

の時代の「美しい日本語」が現代に通じないのなら、何をもって言葉のよしあしを見極めたらよいのでしょうか。

金田 一 川端の日本語は、当人がそれを気に入って使ったにすぎず、今を生きる我々はその同じ言葉で自分



若者言葉などの「仲間言葉」は、使う相手を間違えなければ効用も多いという。

——それが美しく正しい日本語である、と私は思います。

北村 なるほど。我々が非英語圏の人とブローケンな英語で話しても、お互いに仲良くなれて、仕事もはかどるなら、その場はそれでよいということですね。

金田 一 そうです。方言やお国訛りも仲間言葉の一種で、大事なコミュニケーション・ツールになり得るし、仕事帰りに飲み屋でビールをあおって「あーっ」と言う、この「あーっ」が最高の日本語になったりもするわけです。そんな「心から発せられる言葉」をもっとのびのびと使えばいいのに、どうも我々は行儀がよくて、体裁をつけられて、賢く見えそうな言葉ばかりを使っているのではないのでしょうか。

肉声を届けることで
心を通じ、人が動く！

北村 J パワーの社内を見渡すと、多種多様な職能を持った社員たちが個々に研鑽を積みながら、なおかつチームワークを大事にして日々の業務に励んでいます。そこへ向けて言葉を発する際に、どうすれば組織の隅々にまで声が行き渡り、一致団結

孔子『論語』雍也第六の二十
子曰、知之者不如好之者、好之者不如樂之者。

子曰く、これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず。



金田 一 私は最近、中国の古典がおもしろいと思っていますが、孔子の『論語』の中に「子曰く、これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず」という一節があります。

要するに、自分の仕事をよく理解しているのは序の口で、それが好きだと思えるようになれば一人前。それより上は、仕事が楽しくて仕方がないという境地だという意味です。シンプルだけど深いですね、孔子は。

北村 『論語』にそんな一節があったとは知りませんでした。ぜひ、当社の社員にも伝えたいすばらしい言葉ですね。本日はありがとうございます。

(2015年11月2日実施)

朝日を浴びるカトリック教会。

高々とそびえる尖塔が特徴的な「カトリック山手教会」。横浜市の歴史的建造物にも認定されている。この教会のルーツは幕末まで遡る。横浜の開港以降、多くの外国人が移り住んだが、その居留地の中にキリスト教会「横浜天主堂」が献堂された。横浜天主堂は1906年（明治39年）、山手町に移転、ゴシック風聖堂が建築されるが、1923年（大正12年）の関東大震災で崩壊。1933年（昭和8年）に鉄筋コンクリートで再建されたのが現在の聖堂である。なお、尖塔の鐘は1874年（明治7年）にフランスから贈られたものを現在も使用している。

（P.30から、作家・藤岡陽子さんによる横浜市の紀行文を掲載しています）

文／豊岡 昭彦

写真／竹本 りか

風景写真家。千葉県生まれ。2007年、写真家・高橋よしてる氏に師事し、その後独立。日本各地の風景を撮影し、その作品は多くの書籍、雑誌、旅行パンフレット、カレンダーなどに採用されている。埼玉県見沼田んぼ近くに在住。 <http://takemotorika.com>

GLOBAL EDGE

特集 次代を創る日本人

新春対談 自分の思いが伝わる言葉こそ美しい

金田一 秀穂 × 北村 雅良 02

Focus On Scene 朝日を浴びるカトリック教会。 10

Global Headline 寺島 実郎
次世代を育てる“志”とは、どうあるべきなのか。 13

Global Vision
自信のほかに足らざるものなし
齋藤 ウィリアム 浩幸 × 山本 みずき 14

Opinion File 原田 曜平
「さとり世代」の若者たちとは 22

Opinion File ドラ・トーザン
フレンチ・パラドックスに学ぶ少子化問題の解決策 26

Home of J-POWER 藤岡 陽子
人・もの・文化が交錯する情熱の港街を歩く
神奈川県横浜市／磯子火力発電所 30

J-POWER Community 地域とともに
本物のクラシック音楽体験を一生の思い出と生活の潤いに 38

エネルギー保守の現場
「鉄塔・電線路に異常なし」を空からチェック。 40

Global Eye 日本の魅力
漫画家 オーサ・イエークストロム 42

匠の新世紀 株式会社オーエックスエンジニアリング 43

Venus Talk 銅板画家 小柳 優衣 46

「音のソリリティ」を詠む 歌人 小島 なお 48

J-POWER NEWS 49

ペリー提督来航時、八景島沖に碇泊し、その海域を「アメリカン・アンカレッジ」と命名したことを
記念した石碑（神奈川県横浜市）。

表紙イラスト：鯨江 光二
本文デザイン：田村 嘉章、中川 まり、渡辺 美岐
制作協力：Weber Shandwick（ウェーバー・シャンドウィック）



「次代を創る日本人」という本誌の特集テーマに寄せて、明治以降の日本の青年たちに大きな影響を与えたクラーク博士とその弟子といわれる新渡戸稲造、内村鑑三に光を当ててみたい。

「少年よ、大志を抱け！」で有名なクラーク博士は、北海道で育った私にとっても大きな存在だった。クラークの言葉は、明治以降の日本の青年たちにとって共通のスローガンであり、上昇志向の心象風景に訴える強いメッセージだった。しかし、クラークの実像に迫ってみると、「偉大な教育者」という日本での評価とは違う一面も見えてくる。その詳細はここでは述べないが、日本に滞在したのはわずかに約8カ月で、札幌農学校二期生の新渡戸、内村はクラークの講義を受けることはなかった。だが、当時の多くの「お雇い外国人」とは異なり、クラークは学生たちと車座になり、同じ目線で語りあった。そのことが学生たちに共感と呼び、「志の松明^{なまつ}」の手渡しのような形で、後世に大きな影響を与えていく。

旧五千円札の顔となった新渡戸稲造は、海外での評価が高い『武士道』をはじめ、多くのベストセラーを出版し、巨万の富を得て、文京区小日向に大邸宅を構えた。さらに、東京女子大の初代学長や国際連盟の事務次長などを務めた。出生地の盛岡には、「願わくはわれ太平洋の橋とならん」という言葉が記された石碑が立つ。幼くし

て父を亡くし、東京の叔父の家で養育され、功なり名を遂げた新渡戸の立身出世の物語は多くの人の共感と呼んだ。

この新渡戸とコントラストに立っているのがキリスト者として有名な内村鑑三だ。1894年、キリスト教徒夏期学校にて「後世への最大遺物」と題した講話が残されており、そこで述べられている言葉が我々の心を打つ。内村は「われいかに生くべきか」を自らに問いかけ、自己存在の証を残すために何ができるのかを吟味していく。「不朽の名声」「巨万の富」「教育的事業」「万人に読まれる作品」といった類の世俗的なものではなく、人生という「元手」さえあれば誰にでも可能なものがあるという。それは「あの人は真摯に生きた」という記憶そのもの、つまり「勇ましい高尚なる生涯」であると結論づける。

2人は共に札幌農学校に学び、キリスト教に帰依し、米国への留学を体験しているが、その人生はあまりにも異なるものとなった。不遇な境遇から立ち上がり世俗的にも成功者となった新渡戸と、清貧を貫き堂々と生きた内村は、ともに「クラーク精神」の継承者にふさわしい人物であり、日本の近代を支えた偉人だった。今、次世代に向けて人をどう育てていくかを考える時に、どちらが正しい悪いということではなく、この2人の志を見直すことによって見えてくるものがあるのではないだろうか。

（2015年11月30日取材）

Global Headline

次世代を育てる“志”とは、 どうあるべきなのか。



寺島 実郎

てらしま・じつろう
一般財団法人日本総合研究所理事長、多摩大学学長。1947年、北海道生まれ。早稲田大学大学院政治学研究所修士課程修了、三井物産株式会社入社、調査部、業務部を経て、ブルッキングス研究所（在ワシントンDC）に出向。その後、米国三井物産ワシントン事務所長、三井物産戦略研究所所長、三井物産常務執行役員を歴任。主な著書に『二十世紀と格闘した先人たち——九〇〇年 アジア・アメリカの興隆——』（2015年、新潮文庫）、『若き日本の肖像——九〇〇年、欧州への旅——』（2014年、新潮文庫）、『リベラル再生の基軸—脳力のレッスンIV』（2014年、岩波書店）、『世界を知る力 日本創生編』（2011年、PHP新書）など多数。

Global
Vision

自信のほかに 足らざるものなし

起業家、株式会社インター社長、
内閣府本府参与

慶應義塾大学法学部政治学科在学中、
「iRONNA」特別編集長

齋藤ウィリアム浩幸 × 山本みずき

“課題先進国”といわれる今の日本を、文字通り内から外から眺めては
理詰めで前向きに問題解決の糸口をきっちり示す稀代の起業家に、
新進気鋭の論客が、次代の担い手として筋道を問うた。

恩返しのため アントレプレナーを育てる

山本 はじめに齋藤さんのご経歴や
ご経験からお話を伺います。米国で
若くして起業し大きな成功を収めら
れ、日系二世という出自もあって活
動拠点を日本に移されたのが今から
10年前。現在は主に、次世代の起業
家を発掘し支援する事業を中心に国
内外でご活躍中です。

齋藤 私は、渡米して間もない両親
のもとに生まれ、学校では数学が得
意な子どもでした。化学実験や機械
いじりも大好きで、自分の得手を武
器に16歳で大学に入学し、卒業後は
医師の資格を取りました。でも、本
当に好きだったのはパソコンの組み
立てやプログラミングだったので、
在学中からベンチャー企業を立ち上
げ、試行錯誤を繰り返すうちに企業
から仕事の依頼が来るようになった
のです。

山本 それが、まだ10代の頃ですよ
ね。私は今20歳です。日本に生まれ
育ち、日本の大学に在学中の私には
フィクションのように聞こえますが、
ほどなく日本企業との親密なつなが
りもできたとか。

齋藤 ええ。日本の大手IT企業が、

米国の一介の学生ベンチャーにチャ
ンスをくれ、ソフトウェア開発を請
け負うことになりました。予算オー
バーとか、納期は未定とか、迷惑も
かけた私たちを最後まで信じてくれ
たことが、ついにはお互いにとって
の成功につながったのです。その後、
マイクロソフト社から会社の買収を
持ちかけられ、迷った末にそれを受
けて、ビジネスの第一線から退いた
のは33歳の時でした。

山本 成功を手にした齋藤さんが今
度は日本で活動を再開されたのはな
ぜでしょうか。

齋藤 さすがに隠居生活にはまだ若
すぎたのと、私自身のルーツがあ
り、ビジネスチャンスも与えてくれ
た日本に、ここで恩返しをしなければ
罰が当たると思ったのです。当時
の日本は、次世代を担う若者たちが
ビジネスに打って出るような機運が
希薄で、それを支えるアントレプレ
ナーシップ（起業家精神）が十分で
ないことも知りました。そうした閉
塞状況を打開しなければ明るい未来
はない、と誰もが承知しながら、実
行力をもってその任にあたる主体が
現れてこない。ならば、この私が出
ていって、アントレプレナーシップ
を日本に浸透させるための「チェン



ジ・メーカー」になろうじゃないかと、固く心に誓ったわけです。

日本の国や人々が 自信喪失に陥っただけ

山本 2005年に拠点を東京に移し、いよいよベンチャー支援や企業家の養成に取り組まれました。それまで米国から眺めていた日本と、間近にご覧になった日本とで印象に変化はありましたか。

齋藤 見ると聞くとの違いは大きかったですね。その頃は海外でも、バブル崩壊後の日本について「失われた10年」といった悲観的な論調で語られたのですが、私の目に映った日本はネガティブな現象はほとんど認められず、より良くなっているようにさえ見えましたから。インフラ整備が進んで、会社も潰れていないし、子どもは学校や塾に通えているし、政府もそれなりに機能している、表面的にはすばらしい国です。そうであるなら、この10年、20年のうちに何が変わったのか——先に結論を言ってしまうと「自信をなくした」だけなのではないでしょうか。
山本 齋藤さんは日本の問題点を探ろうと国内外を精力的に見て回られたそうので、最後に行き着いたのが、

いう形で失った自信を取り戻すことは実はそんなに難しくはない。新興国など基盤がまだ脆弱な国の場合は、一から産業を興したり、教育システムを構築したりするところから手をつける必要がありますが、日本はそんなハンデは背負っていないのですから。

山本 もとより社会や産業の基盤は整っていて、それ自体がアドバンテージになるのですね。

齋藤 そうです。少し茶化して言うのと、持ち主のいない1万円札が目の前に落ちてゐるのに、日本の人は拾うのが面倒くさいだけなんじゃないですかと（笑）。誰もかものんびり構えているなど、そう見えるのです。

避けて通れぬものは 失敗と呼ばない

山本 そうした日本人のもどかしさの背景に、企業や学校のあり方の問題がありはしませんか。欧米諸国に比べて、こうも違うかといったような点が……。

齋藤 同質性や安定志向に重きを置き過ぎていることが資本主義の大本である自立心や競争心の妨げになっていると感じています。若者がいくら頑張って大企業に入っても、やり

アントレプレナーシップとは、 夢の実現に筋道をつけることです。

この国の「自信喪失」であったと。
齋藤 はい、唯一そこに尽きると私は思います。

山本 実は、私たち以降の世代の日本人は、自信をなくす前の活気あふれる日本がどんなだったのか、その実態を知りません。私自身を含めて、将来の自分に自信が持てないために、どういう方面に進んで何をやってたらか、それ以前に自分の生活を安定させられるのかといったレベルで気持ちが萎えてしまいます。そんな



齋藤ウィリアム浩幸(さいとう・ういりあむ・ひろゆき)
1971年、米国カリフォルニア州生まれ。日系二世。16歳でカリフォルニア大学リバーサイド校合格。同大学ロサンゼルス校医学部卒業。10代でI/Oソフトウェアを起業し、生体認証暗号システムなどの開発で成功。2004年会社をマイクロソフトに売却。05年拠点を日本に移し、ベンチャー支援の㈱インテカー設立。13年、内閣府本府参与（科学技術・IT戦略担当）就任。各国政府機関への協力、政策提言、大学の講義など精力的に活動を展開。

たいことができるのは40代以降で、20代ではなかなか活躍できないのが日本。大きな夢を抱いて頑張れば、行く手に大統領になる道だって開けるかもしれないのが米国という、極論すればそういう違いはあると思います。

山本 日本に生まれ育った身として、いい学校、いい会社に入ること、努力の矛先が向けられている実感がありません。でも、そのあと自分が社会の中でどう頑張りたいのか、そこへ

状況下でも日本人が自信を取り戻せて、日本が新たな方向へ踏み出せる、何かよい処方箋はあるでしょうか。
齋藤 私が取り組んでいる活動の主題が、まさにそこです。アントレプレナーシップとは「夢をどう実現するかに筋道をつけること」と言い換えられます。山本さんより少し上の世代で、バブル経済を多少経験している日本人には、それが崩れたせいで何かを奪われたとか、裏切られたような感覚があると思います。そう

の意識づけとか競争心はあまり持ち合わせていませんね。

齋藤 私が以前、母校での基調講演で話したのは、学生のうちにとことん挫折経験を積みなさいということ。この点は米国も日本も同じですが、エリート学生は世間からちやほやされ、挫折を知らないとは言わないが、競争社会に出てから味わう挫折は生半可ではありません。それを察知すると本人にプレッシャーがかかり、失敗を避けようと保守的に

自分が社会でどう頑張りたいか、 意識づけや競争心が足りていません。



山本みずき(やまもと・みずき)
1995年福岡県生まれ。高校在学中に福岡市親善大使を務める一方、ボランティア活動団体「Peaces」設立。2013年に「18歳の宣戦布告」(月刊正論)で論壇デビュー。現在は慶應義塾大学法学部政治学科に在籍の傍ら、産経新聞のオピニオンサイト「iRONNA」の特別編集長はじめ国内外で執筆・講演活動に取り組む。

Global
Vision
Saito William Hiroyuki
Yamamoto Mizuki

日本のポテンシャルと再生のポイント

日本のポテンシャル

整備されたインフラ
民主的な政府
確立された社会システム
高水準な教育システム
技術力のある企業



自信

ていますが、失敗や挫折体験への対処法をアドバイスいただけますか。

齋藤 「失敗は経験である」の一言で済みます。日本語では「失敗」というと、「失い敗れる」という字面は敗

北感が満々ですが、失敗は経験の1つでしかありません。一方には「失敗は成功の母」というすばらしい格言もあります。もちろん、チームで何かに挑戦して失敗したらリーダーは責任を取らねばなりません、それも含めてよい経験を積んだと、あくまでも前向きに捉えるべきです。

山本 何かアクションを起こさないことには失敗しようがない。それでは経験が積めるわけでもないですね……。

齋藤 山本さん、自転車に乗れるまでに何回転びました？

山本 たぶん数限りなく転んだと思います。

齋藤 あれも失敗ですけど、そこを通らないと上手に乗れないのだから失敗とは呼ばない。紛れもなく「経験」なのです。

改善のものとづくりと破壊的イノベーション

山本 失敗を恐れると動き出せなくなるというお話は、日本の

成果を挙げ、毎年のようにノーベル賞の受賞者を輩出していることから分かるように、日本はここが盛んです。一方のイノベーションは、逆にアイデアをお金に変換することで、こちらの重要性が日本では見過ごされがちです。

山本 思いついたアイデアをお金に換えるのは相応のリスクを伴うから、なかなか踏み出す人や企業が現れないのでしょうか。

齋藤 ものづくりの改善を好む堅実志向も一概に退けられません。ただ私が心配なのは、かつて日本が市場を席巻したエレクトロニクスなどの分野で、ことごとくリーダーの座を明け渡していることです。原因は、ものづくりがハードからソフトへ移った一大転換期に、日本がバスに乗り遅れたこと。今後、グローバル時代に求められるイノベーションを本気で起こしたいなら、日本に蓄積されたイノベーションの成果を生かし、世界を驚かせる「破壊的なもの」を創出するべきです。

グループではなくチームに改組せよ！

山本 齋藤さんは「チームの不在」

産業界がお家芸としてきた「ものづくり」で、グローバル時代にふさわしいイノベーションが起きてこないという問題とつながっているような気がします。

齋藤 イノベーションには2つのタイプがあって、それまでの形態や形式、技術的アプローチをガラリと入れ替えてしまうのが「破壊的イノベーション」、既存のものに日々の積み重

「グローバル市場のリーダーは『破壊的なもの』なのです。」

ねで改良を加えていくのが「漸進的イノベーション」です。例えば、音楽メディアがぐるぐる回るCDからデータ圧縮によるMP3（※1）へ進化するのが前者の典型であり、自動車産業でよく知られる「改善（カイゼン）」の取り組みなどが後者の好例といえます。今の日本は、改善を重ねるものづくりは依然として強いが、グローバル化の中で求められる

破壊的イノベーションをなかなか生み出せず、そのために停滞感を余儀なくされています。

山本 改善のものとづくりは、どこにも通用しなくなるのですか。

齋藤 そうではなくて、まずはじめに既存概念を覆す「破壊的なもの」が登場し、それを雛形にして「漸進的なもの」が練り上げられていく。その繰り返しでイノベーションが右肩上がりに進むのですが、グローバル市場をリードし、よく売れて収益性も高いのは「破壊的なもの」なのです。日本も、改善のものとづくりを続けながら、可及的速やかに破壊的イノベーションに踏み込んでいかないと後れをとるばかりです。

山本 日本では、イノベーションという言葉自体への理解が不十分で概念が独り歩きしているところがあるそうですね。

齋藤 そう。「技術革新」という訳語で大雑把にくくられて、私の定義からするとイノベーション（※2）とイノベーション（※3）の区別があいまいです。イノベーションは基礎研究に近いところで、分かりやすく言うと、お金をかけてアイデアを生み出すこと。大学や研究機関が立派な

を、破壊的イノベーションが日本に生まれにくい理由の1つに挙げておられますね。

齋藤 個人と組織という観点でこの国を見た時、勤勉さや協調性、教育水準などの点で個々の人材は優秀なのに、組織としてのパフォーマンスは今一つです。私が実際に見て回った日本企業の場合は、何かを解決する、何かを生み出すための組織ではなく、与えられたこと、決められたことを間違えずに処理するための組織になっていました。そこで頭に浮かんだのが「これはチームではなく、グループだ」ということです。

山本 横並びで、役割分担して、仕事をこなしている感じは学生の私にも察しがつきます。そんな職場組織から、あつと驚くようなものが生まれてくるとは、なかなか……。

齋藤 ええ、残念ながらね。それを「チーム」に編成し直すには、メンバーにもっと多様性を持たせて、それぞれが個性を発揮しやすい環境をつくる必要があります。個々の人材の経験、知識、視点、意見が引き出され、それらが混じり合って化学変化が起こり、思いも寄らないイノベ



改善のものとづくりは、この先、通用しなくなるということですか。

Global Vision

Saito William Hiroyuki
Yamamoto Mizuki

Keyword

※1 MPEG
音楽や動画などの圧縮規格の1つ。MP3規格の動画は主にDVDやネット配信で使用されている。iPodなどの携帯音楽プレーヤーで使用される音楽も多くはMP3規格。小さいメディアで大量の音楽を持ち歩くことを可能にした。

※2 イノベーション
【Innovation】物事の新機軸、新結合。新たに発見された切り口、捉え方、活用方法など。それらを創造する行為を指す場合もある。

※3 インベンション
【Invention】発明する行為、創意工夫。研究活動や実験などからもたらされる創造を指して言うこともある。



「超・少子高齢化問題を 日本が克服するのを 見届けます。」

「イノベーションが優位なら、
違った景色が見えてきそう。」

シヨンの素地が生まれる。反対に、年齢や性別、学歴、専門性などが固定化された「グループ」に起こりやすいのは、組織の動脈硬化です。

山本 私の大学には欧米からの帰国子女が多くて、彼らが口を揃えて言うのは、日本の社会には女性疎外の空気が濃密であると。国は盛んに女性の社会進出を促していますが、受け入れ側の企業組織も相応のマイノリティを持たなければなりません。

齋藤 日本の人口の半分以上は女性ですし、その潜在力を十分に活用しないことによる経済的損失はGDPの約15%に上るという試算もあります。女性に限らず、あらゆる人材の有するポテンシャルを生かすダイバーシティの視点を抜きにしては、もはや「チーム」の編成も組織運営も語れない時代です。

山本 では、どうすればグローバルに通用する「チーム」がつくれるのでしょうか。

齋藤 私が日本の大学で教えていた時に、学生に好きなチームについてアンケートを取ったら、一番人気は女子サッカーの日本代表でした。サッカーはまさに異なる個性が連携し合い、ぶつかり合うチームスポーツで、ゲームが始まれば、局面ごとの状況

Global Vision

Saito William Hiroyuki
Yamamoto Mizuki

国際会議、政策提言、講演や大学の授業と寸暇を惜しんで飛び回る齋藤さんは、日本再生の伝道師のようだ。
写真：AP / アフロ



ネット世代を中心に支持を広げる山本さん。写真は「IRONNA」の取材でサンフランシスコを訪れた際のもの。

超・少子高齢化の ピンチをチャンスに

山本 グローバル時代を迎え、私たちが自信を取り戻すには何が必要か、齋藤さんから多くのヒントをいただきました。2016年はオリンピック・イヤーで、4年後には東京大会を控えた折でもあり、次代の担い手である若者世代に向けて何かメッセージをお贈りくださいますか。

齋藤 1964年開催の前回は、戦後復興から一足飛びで先進諸国に肩を並べた日本を、世界にアピールする晴れ舞台でした。時移り、今の日本が世界に示せるトピックは何かという、「超」の字がつく少子化と高齢化を史上初めて同時体験する国になることです。当の日本人には重荷と映るかもしれませんが、私に言わせれば、これが他の国でなくて本当によかった。だって、この国の人たちなら、お年寄りの世話が手に余るからといって、道端へ放り出すようなことはしないから。そうなる前に八方手を尽くし、段取りをつけておく国民性が日本にはあります。

山本 心情的にはその通りと思いますが、具体的にどんな手を打つかの段になると、これといった打

開策が見えてこない現状もあります。

齋藤 ピンチはチャンス！失敗を恐れて動き出さないのはダメと、さつき申し上げたばかりです。私の知る限りでも、IoT（モノのインターネット）や自動化医療などの分野では、イノベーションに向けた果敢な動きが加速しています。私が日本に留まって活動する一番の理由は、この「スーパースー少子高齢化問題」を日本がどう切り抜けていくかを見届けたいから。あと10年か15年経つと、韓国、欧州、米国、中国などの国も同じ境遇に立つことになるからです。**山本** なるほど。そうなるまでに日本が「破壊的」も「漸進的」も含めて真のイノベーションを加速していけば、今とは全然違った景色が見えてきそうな気がしますね。

齋藤 はつきりと自分の考えを述べているところに、あなたの「自信」を感じます。最後に一言だけ付け加えると、チームに何よりも必要なのは「パッション」すなわち「魂」です。魂のこもったチームをどうやってつくるかに、日本の再生がかかっています。**山本** 大変勉強になりました。お話を伺えて本当によかったです。ありがとうございました。

（2015年10月23日実施）



上昇志向も物欲もない!?

「さとり世代」の若者たちとは

「生まれてからずっと不況」
を生きてきた若者たち

「車もブランド品も要らない」「海外旅行はしない」「出世には興味がない」「そこそこの生活ができればいい」など、まるでさとの境地に達したかのように淡々と生きる若者が増えていくという。「さとり世代」と呼ばれる、10代後半～30歳ぐらいまでの若者たちだ。

さとり世代の特徴は、とにかく「欲がない」こと。ローンを組んで高級車やブランド品を買い、消費意欲も上昇志向も旺盛だったバブル期（※1）の若者たちとは対照的に、さとり世代の若者たちは、無駄な消費も無駄な努力もしないと評される。ここ数年、さとり世代は、「欲しがらない若者たち」としてメディアで話題を呼び、一部には「消費をしない若者が増えれば、日本経済の縮小に拍車がかかっ

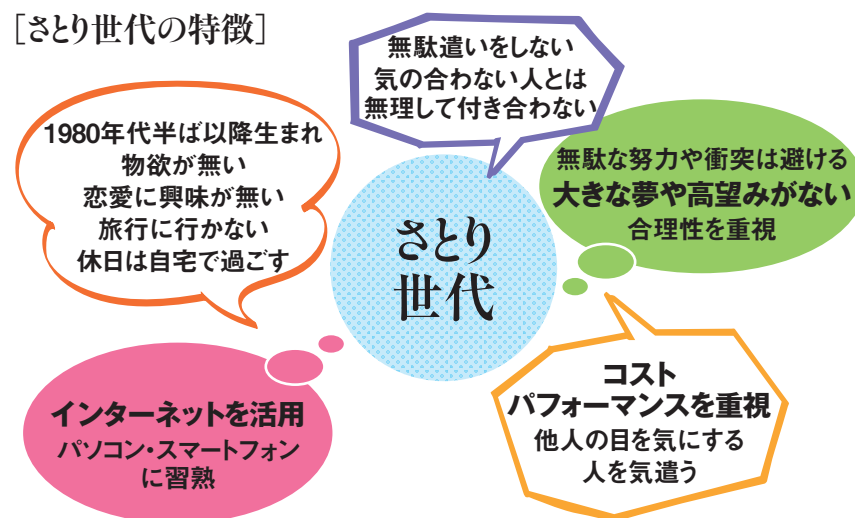
てしまう」と懸念する声も聞かれる。そもそも、さとり世代が出現した背景には何があるのだろうか。

現代の若者に詳しい株式会社博報堂ブランドデザイン若者研究所リーダーの原田曜平氏は次のように分析する。

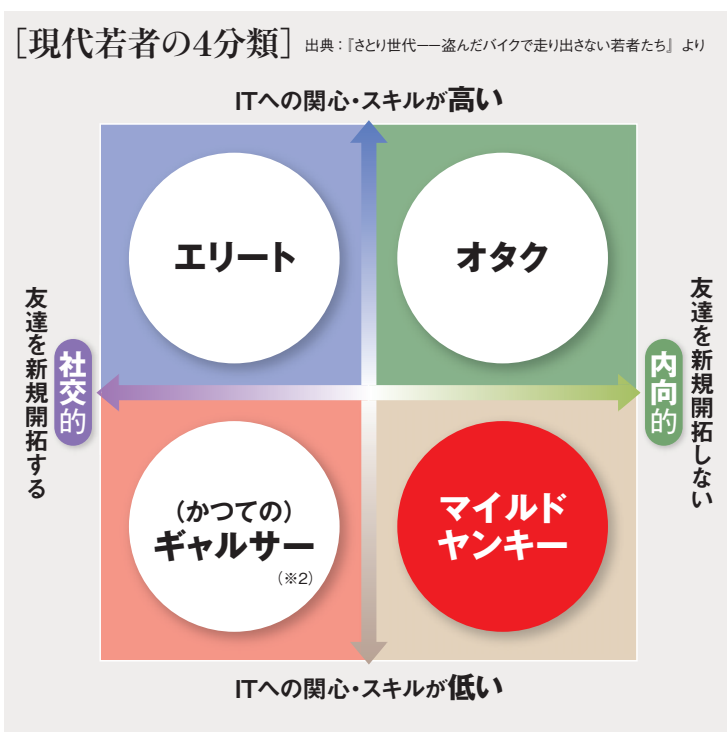
「さとり世代は、バブル崩壊後のいわゆる『失われた20年』を生きてきた世代、不況しか知らない世代です。だから社会や大人、将来に過剰な期待を抱いておらず、『こんなもんだよね』という冷静な目で世の中を見ています。一方で便利な家電やインターネット、携帯電話が幼いころから身の回りにあるという、物質的には史上最も恵まれた環境で育っています。だからこそ物欲が強いのです」

しかし、原田氏によると、さとり世代は決して消費をしない世代というわけではなく、消費の目的やスタイルが従来の若者と異なっているだけであるという。

「さとり世代の特徴」



株式会社博報堂
ブランドデザイン若者研究所
リーダー



ます。例えば、さとり世代の多くが車を所有しない中、マイルドヤンキーは車、それも大人数で乗ることができる車を所有しています。その理由は友達と一緒にドライブや買い物に出かけられるから。つまり友達と時間を共有し、思い出をつくりたいがゆえに車を所有するのです」

マイルドヤンキーほどではないにせよ、さとり世代は基本的に友達を大切にします。そして原田氏によると友達との付き合い方にも、さとり世代ならではのの特徴があるという。

「さとり世代の友達付き合いのベースはSNS（※4）です。SNSの普及は若者たちの人間関係を広く浅いものに変えました。例えば、大学生でも地元の友達、バ

空気を読むさとり世代

SNSは消費だけでなく、さとり世代の生活のほぼすべてに影響を及ぼしていると言っても過言ではない。

「バブル期の若者は、ブランド品や車を友達だけでなく、街ですれ違う知らない人たちにも見てもらうことで優越感に浸っていました。しかし、さとり世代はそのようなことに価値

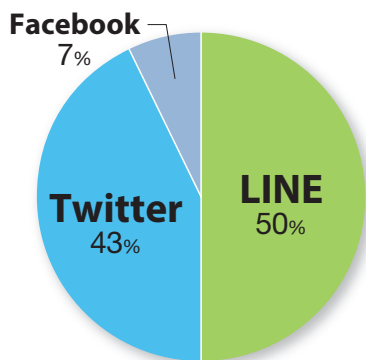
【特集】次代を創る日本人

「さとり世代の消費の特徴は『モノより思い出』。友達との交際や思い出づくりには好んでお金を使うのです」

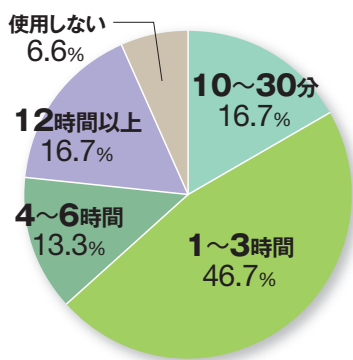
原田氏が例に挙げるのは、主に地方都市に住む、さとり世代の一部で「マイルドヤンキー」と呼ばれる若者たちである。「マイルドヤンキー」とは原田氏の造語で、外見上はヤンキー（※3）風であるものの、いわゆる「不良」ではない、ごく普通の若者たちのことを指す。「マイルドヤンキーも一般的なさとり世代の若者と同様、上昇志向も物欲もあまり強くありません。ただ、地元志向が強く、地元の友達をとっても大切にするという点が際立ってい

「さとり世代に聞いたSNS事情」

SNSの各ツールと使用割合



1日のLINEの使用時間



出典：「さとり世代——盗んだバイクで走り出さない若者たち」より

※4 SNS

ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略。インターネット上のサービスを通じて社会的ネットワークを構築するサービスのこと。主目的は基本的に個人間のコミュニケーションであり、知り合いとの連絡や近況報告等に使用されることが多い。

※3 ヤンキー

不良少年・少女の俗称。周囲を威圧するような言動や派手なファッションが特徴。1970年代～80年代にかけては「ツッパリ」、「スケバン」などと呼ばれ、シンナーの乱用や暴力事件を起こす者が続出、社会問題化した。

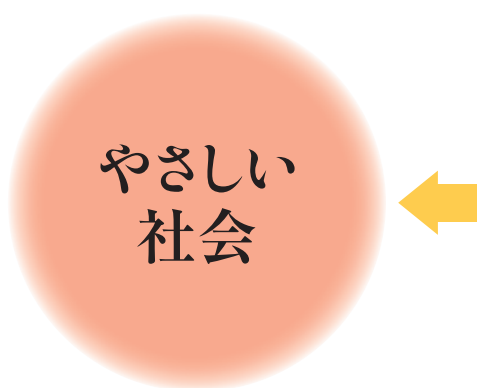
※2 ギャルサー

ギャルサークルの略語で、行動的で社交的な若い女性を指す。2000年代初頭に流行した。

※1 バブル期

1980年代後半～90年代初頭の好況期のこと。

「さとり世代が生み出す社会」



さとり世代

- ① 共感性がある
- ② コミュニケーション能力が高い
- ③ 現状追認指向

れらを狭める原因となっているのは、実に残念なことだと思います」

さとり世代がつくる「次代の日本」とは？

このように様々な点で、従来の若者とは異なるさとり世代。欲のない彼らが、これからどんな日本を形づくっていくのだろうか？と不安に思う向きもあるだろう。特に若者向け市

を見出しません。彼らが重要視しているのはあくまでも身近な友達からの評価です。例えば、Facebookに『ブランド品を買いました！』などと投稿しようものなら、『あんなことを自慢して、イタイやつ』と馬鹿にされてしまうかもしれない。それが彼らにとっては非常に怖いことなのです。SNSで繋がっているということは、裏を返せば、常に友達に監視されているということ。特に最近、若者の間で人気のLINE[※]は、FacebookやTwitterに比べてかなり密着性が高いため、一種のムラ社会が形成されやすく、ちょっと目立つことや人と違うことをすると陰で『うざい』とバッシングされてしまうこともあります。そんな人間関係の中で生きているためか、さとり世代の若者は、空気を読む能力に長けていますね」

さらにさとり世代の中には空気を読むだけでなく、「見られたい自分」を演出するツワモノもいるという。

「例えば、いつも飲み会や旅行の写真ばかりSNSに投稿していると『あの人はいつも遊んでいる』と評価されてしまうので、たまにボランティアや学生団体での活動を投稿したりして、バランスのいい人物として自分をPRするのです。大学生の場合、就職活動の際の自己PRネタに使えるかどうかが行動原理になってしまっている人も多いですね。海外にボランティア活動に行くのは単に海外旅行に行くよりも企業の受けがいいから。同じ理

由から、サークルではなく学生団体に所属することを選ぶ学生もいます。自分の興味関心より、人からどう評価されるかを優先する傾向があることも、さとり世代の特徴でしょう」

若者の行動力を奪う「既視感」と「コスパ」

このほか、SNSをはじめインターネットがさとり世代の若者たちに与えている影響として、原田氏は「既視感」を挙げる。つまり、インターネット上に溢れかえる情報を見聞きしているうちに、若者たちは、行ったこともない場所に行った気になり、経験したこともないことをしたことがあるような気になってしまう。そしてその「既視感」が、実際の行動にブレーキをかけてしまうのだという。

「例えば、海外旅行に行った友達がFacebookに投稿した現地の風景や食べ物の写真を見て、なんとなく分かった気になってしまつて、その国への興味がなくなってしまうんですね。もしくはバイト先で『店長をやってみないか』と打診されても、SNSなどで実際に店長をしている人が『仕事が大変』『毎日残業』などと書き込んでいるのを見て、実際にはやったこともない店長の仕事を『大変過ぎて私にはとてもできない』と決めつけ、辞退してしまうのです」

そしてさとり世代の若者たちの行動や消費を左右する基準としてよく見受けられるのが「コスパ」つまり、コストパフォーマンス（費

場の開拓に悩む企業は多い。

「私がリーダーを務める若者研究所にも様々な企業の方々から『若者にモノが売れない』というご相談をいただきます。しかし、先ほどお話ししたとおり、さとり世代は消費をしないわけではありません。SNSも彼らにマインナスの影響だけを与えているわけではないのです。例えば、Facebookで『いいね！』ボタンを押してもらいたいから珍しい料理を食べに行ったり、仮装してハロウィンパーティに繰り出したりする『ネタ消費』は盛んに行われています。『若者にモノが売れない』のは、私たち大人が『若者とはこういうものだ』という既成概念にとらわれ、若者を理解しようとしてこなかったからかもしれません」

と原田氏は指摘する。

「実は若者の『さとり』世代化は、日本だけではなく米国や中国でも起きています。経済成長が一段落し、物質的な豊かさを手に入れた社会には、欲のないさとり世代が生まれるのはある意味必然かもしれません。そう考えると今は新興国といわれている国々でも、SNSを使いこなし、物質的な消費に消極的なさとり世代が社会の主役となる時代が、近々やってくるはずですよ。逆の見方をすればこれは企業にとって大きなチャンス。企業はさとり世代によって生み出される新たな消費に着目し、新たなマーケットを創出していく必要があります」

原田氏はさとり世代が担う次代の日本につ

用対効果」の良し悪しだ。

「コスパを比較検討すること自体は決して悪いことではありません。問題なのは、得られる効果が違うものを同じ金銭軸で比較してしまうこと。例えば、以前『20万円の旅費をかけて海外旅行に行くのなら、40回友達と飲みに行ける』と言った学生がいましたが、これはまったくのナンセンス。海外旅行で得られるものと、国内で友達と飲みに行つて得られるものはまったく違います。このように、本来は視野や可能性を広げるためのツールであるはずのインターネットやSNSが、逆にそ



海外での取材も多い原田氏。若者のさとり世代化は米国や中国でも顕著だという。

いて、決して悲観していない。

「もちろん、さとり世代にも問題点はありません。でも少なくとも彼らは、多くを望まない地に足のついた生活をするることによって、先行きが不透明な日本社会にうまく対応しています。もしもアベノミクスが功を奏して日本が好景気に沸いたとしても、羽目を外してバブルと同じ過ちを繰り返すのは、彼らではなく『失われた20年』をつくった張本人である私たち大人でしょう。その意味で、私たちは彼らから学ぶべき点がたくさんあるのではないのでしょうか。さとり世代は、現状に不満を抱くことの少ない穏やかで共感性の高い、魅力的な若者たちなのです。しかも、コミュニケーション力に長け、場の空気を読み、人の立場に立つてものを考える習慣を身に付けていますから、とてもやさしい。彼らが働き盛りとなり社会の主役となったら、日本社会はもっと『やさしい社会』に変われるのではないかと、期待しています」

取材・文／相山華子

原田 曜平（はらだ しょうへい）
株式会社博報堂ブランドデザイン若者研究所リーダー。多摩大学非常勤講師。1977年、東京都生まれ。慶應義塾大学商学部卒業後、株式会社博報堂入社。ストラテジックプランニング局、博報堂生活総合研究所、研究開発局を経て、現職。2003年、J A A A広告賞、新人部門を受賞。専門は若者研究。近著に『さとり世代―盗んだバイクで走り出さない若者たち』（2013年、角川one teema 21）、『ヤンキー経済消費の主役・新卒卒層の正体』（2014年、幻冬舎新書）、『新・オタク経済 3兆円市場の地殻大変動』（2015年、朝日新書）など。

※5 LINE

LINE 株式会社が提供するSNS。中高生や大学生などの若者に人気が高い。文字メッセージのやりとりができる機能のほか、インターネット電話機能も有する。



フレンチ・パラドックスに学ぶ 少子化問題の解決策



ドラ・トローザン
国際ジャーナリスト、エッセイスト

矛盾が矛盾でない フレンチ・パラドックス

日本の少子化が続いている。
昨年9月、厚生労働省が発表した2014年の合計特殊出生率（※1。以下、出生率）は1.42。世界でも最低の水準だ。
06年以降は微増傾向にあるものの、このまま少子化が進めば、50年後の日本の生産労働人口は今の半分程になるといった試算もある。今後も1億人程度の人口を維持するには、現在の出生率を2030年までに2.07（2.08まで引き上げなければならない）。
第3次安倍晋三内閣が打ち出す「アベノミクス新3本の矢」でも出生率回復は急務の重要課題とされ、当面の希望出生率を1.8に設定したが、世界でもやはり深刻な少子化に直面し、一時の急激な出生率の落ち込みを回復させた国がある。GDP世界第6位のフ

「フランスの子育て支援環境」

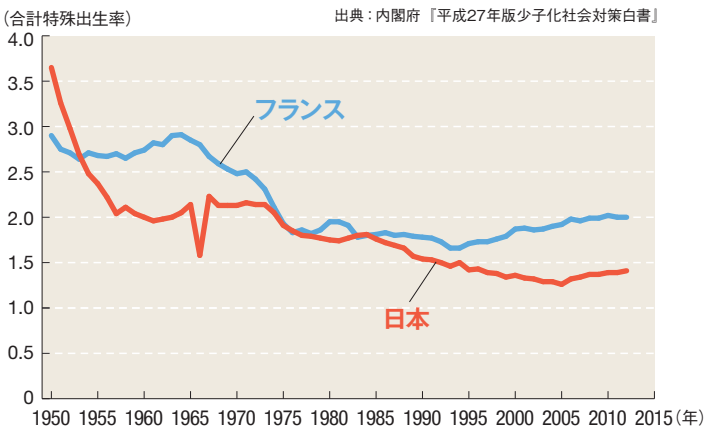
- 1 育児休暇手当（母親だけでなく父親も）
- 2 育児休暇期間が3年（母親）
- 3 休職しても同じポジションに戻る法律
- 4 ベビーシッター保育によるママの援助
- 5 大学まで教育費が無料

ンス（※2）だ。
1994年に1.66まで下がったのを底に、フランスは出生率回復を続け、11年には2.03まで上昇。14年の最新統計でも2.01という高い水準を維持している。
少子化が進む多くの先進諸国にあって、フランスはなぜそこまで出生率を回復できたのか。そこに日本の少子化を解決する糸口があるのではないだろうか。

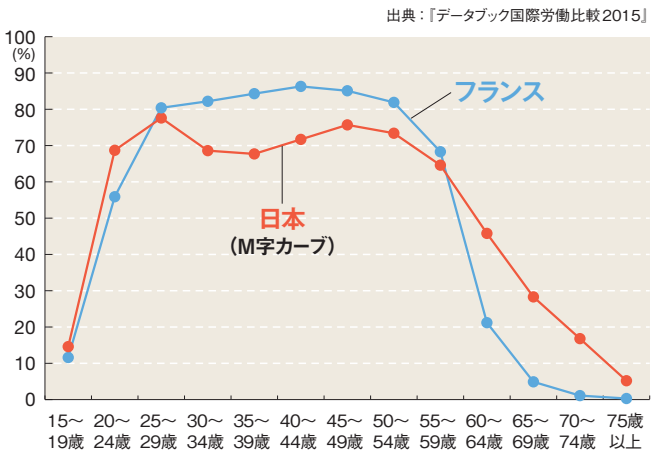
フランスと日本の事情に詳しく、両国の架け橋となつて幅広い分野で活躍するドラ・トローザンさんは、90年代後半に世界で知られるようになった「フレンチ・パラドックス」（※3）にヒントがあると考える。

「フレンチ・パラドックスとは、フランス人は脂肪分の多い料理を食べているのに心臓疾患が少ないことから生まれた言葉で、その理由がある米国の研究者が調べた結果、フランス人がよく飲む赤ワインに含まれるポリフェ

「フランスと日本の合計特殊出生率の推移」



「フランスと日本の女性労働力率の比較」



ノールが作用していることがわかりました。つまり矛盾が矛盾として成立しない、フランスの特徴的な面を象徴する言葉がフレンチ・パラドックスなのです。他にもフランスの女性の仕事もするけれど子どもも産む、お母さんになってもずっと女性でいようとする、労働時間は短けれど生産効率は高いなどがあります」

そう言及した上でドラさんは、日本の少子化は主に福祉政策に原因があると分析し、中でも女性の働く環境と政府の子育て支援にそれが顕著だと話す。

「フランスには女性が働きながら2人、3人と子どもを産み育てられる環境があります。それは政府の子育て支援が手厚いからです。例えば出産手当は子どもが増えるごとに増額され、医療費以外にお祝い金支給されます。子どもの人数が増えれば税金だって安くなります。育児休暇手当は休みを取った母親にも父親にも支給され、特に母親は法律により3年間の育児休暇を取ることが可能。しかもフルに休んでも休職前と同じポジションで職場に戻るのです。それは正社員だけでなく、契約社員も対象という点が日本と大きく違うところです」

国際ジャーナリスト、エッセイストとして政治や経済、文化の視点から長年、フランスと日本をウォッチしてきたドラさんは、こうしたフランス社会の福祉政策が女性たちの出産意欲を大いに高めていると話す。

働いても産むフランス 二者択一に迫られる日本

日本でも出産手当や育児手当は自治体ごとに支給され、育児休暇制度も企業で導入が進んでいる。しかし実態は制度に追いついておらず、育児休暇を取るのに肩身の狭い思いをする人は少なくない。また、育児休暇の期間を延ばそうという動きもあるが、復職に伴う不安から、女性たちには手放しに長期の育児休暇を歓迎できないという実態もある。

ちなみにフランスではベビーシッターや保育ママなどの子育て支援が社会に浸透しており、「国の政策も国民の意識も日本とフランスではかなりギャップがあります」とドラさんは語る。

さらに子どもは3歳から学校に通い、公立ならば大学まで授業料は無料。日本では数千万円ともいわれる子どもの教育費が家計の大きな負担となり、子どもを増やしたくても増やせない夫婦が大勢いるのも問題だ。

結婚に対する考え方もフランスと日本では大きく違っている。

「今の時代、フランスに専業主婦はほとんどいません。いても上流階級のマダムぐらい。普通は女性も仕事をして経済的に自立し、子どもを持つとします。もともと個人主義が根付いている国ですから、男女の関係性もとてもフレキシブル。もはや結婚というクラシックなスタイルにこだわらず、代わりにPACS

※1 合計特殊出生率
人口統計上の指標で、1人の女性が一生に産む子どもの平均数を示す値。

※2 GDP世界第6位のフランス
2014年の最新データ。2013年は第5位だったが英国に譲った。日本は米国、中国に次いで第3位。

※3 フレンチ・パラドックス
相対的に喫煙率が高く、飽和脂肪酸が豊富に含まれる食事をしているにもかかわらず、フランス人に冠動脈性心臓病が比較的小さい矛盾に由来する造語。ボルドー大学の科学者セルジュ・レナウド博士が命名。



「フランスの少子化対策をそのまま日本に持ち込むのは難しいけれど、必ず参考になります」とドラさん。

一方、フランスでは育児休暇を終えれば職場に戻れるため労働力率は落ち込むことがない。「日本ではキャリアのために子どもを諦めたり、仕事の都合を優先するうちに出産のチャンス逃してしまったりする女性が少なくありません。また産めたとしても、キャリアを優先すれば自然と高齢出産になり、2人目、3人目を産むのが難しくなります。高齢出産自体はフランスでも増えていますし、産みたい時に産むという考え方に私も賛成ですが、そのために優秀な女性がキャリアを断絶されることも、子どもを諦めることも、とてももったいないことです。社会にとっても大きな損失ではないでしょうか」

結果、男性もプライベートに目を向け、パートナーや子どもと過ごす時間や自分の趣味の時間を楽しむようになったという。「やはり心身がリラックスした状態ないとパートナーに優しくできないし、コミュニケーションも面倒になってしまいます」とドラさん。そのための長い有給休暇制度、いわゆるヴァカンス(※5)はフランス人になくてはならない習慣で、2〜3週間の休みが法律で保障されている。

「日本人の働き方は昔とそれほど変わっていないように思えます。日本という国は諸外国の文化を独特の感性で取り入れる柔軟性を持っているのに、働き方はなぜ変わらないのか。それこそジャパニーズ・パドックスです」

フランスも70年頃までは完全な男性社会で、家族の権限はすべて夫が持ち、妻には何の自由も与えられていなかったという。それが男女平等の世の中に向かうきっかけとなったのは68年の5月革命(※6)。フランスを中心に世界的に巻き起こった労働者や学生たちの社会革命だった。「フランスにも保守的な社会

(パクス)(※4)と呼ばれる事実婚が増えています」

PACSはもともと同性カップルのためにつくられた共同生活制度。それが今では男女のカップルのトレンドとなり、99年には法制化もされて社会保障制度が整った。PACSには税金の控除や財産権の引き継ぎなどで結婚と同等の権利が与えられている。

またPACSの増加で6割以上に増えた婚外子も嫡出子と同等に遺産相続できるなど法律も改正。その時代にマッチするよう社会のシステムを変えていく辺りがフランスのおもしろいところだとドラさん。

日本は、古くから根付く母親像が女性の人生の選択を狭め、家庭に入るか、仕事を取るかの二者択一になっており、子どもを産みたくても産めない女性が増えたことも、少子化が進んだ原因のひとつではないかとドラさんは見る。

「結婚して子どもを産み育てることが女性の役割というのが日本ではまだスタンダード。最近は子育てに協力的な男性(イクメン)も増えてきたようですが、働く意欲のある女性の多くは仕事を取るか子どもを取るかの二者択一の壁にぶち当たっています」

それは年齢別の就労状況を見れば一目瞭然で、25〜45歳の出産・育児期にあたる女性は仕事を辞める傾向が強く、労働力率を表すグラフはアルファベットの「M」の字のような曲線(M字カーブ)を描く(27ページ参照)。

結果、男性もプライベートに目を向け、パートナーや子どもと過ごす時間や自分の趣味の時間を楽しむようになったという。「やはり心身がリラックスした状態ないとパートナーに優しくできないし、コミュニケーションも面倒になってしまいます」とドラさん。そのための長い有給休暇制度、いわゆるヴァカンス(※5)はフランス人になくてはならない習慣で、2〜3週間の休みが法律で保障されている。

「日本人の働き方は昔とそれほど変わっていないように思えます。日本という国は諸外国の文化を独特の感性で取り入れる柔軟性を持っているのに、働き方はなぜ変わらないのか。それこそジャパニーズ・パドックスです」

フランスも70年頃までは完全な男性社会で、家族の権限はすべて夫が持ち、妻には何の自由も与えられていなかったという。それが男女平等の世の中に向かうきっかけとなったのは68年の5月革命(※6)。フランスを中心に世界的に巻き起こった労働者や学生たちの社会革命だった。「フランスにも保守的な社会

保守的な社会から脱却し 人生の選択に多様性を

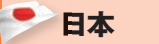
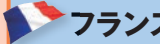
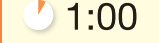
ヴァカンスをたくさん取るのに、GDP



ドラ・トーザンさんの著作の一部。フランスの少子化対策を含め、フランス人の生き方にフォーカスしたものも多い。

【主要国との国際比較】

出典：内閣府「経済財政諮問会議」資料

	 日本	 フランス	 イギリス	 スウェーデン	 ドイツ	 米国
女性の平均初婚年齢	29.2歳 (2012年)	30.8歳 (2011年)	—	33.0歳 (2011年)	30.2歳 (2011年)	25.8歳 (注1)
第1子出生時の母親の平均年齢	30.3歳 (2012年)	28.6歳 (2006年)	30.6歳 (2010年)	29.0歳 (2011年)	29.0歳 (2011年)	25.1歳 (2005年)
婚外子の割合 (2008年)	2.1%	52.6%	43.7%	54.7%	32.7%	40.6%
長時間労働者の割合 (週49時間以上) (2012年)	計22.7% 男性31.6% 女性10.6%	計11.6% 男性16.1% 女性6.5%	計12.0% 男性17.3% 女性5.8%	計7.6% 男性10.7% 女性4.2%	計11.2% 男性16.4% 女性5.0%	計16.4% 男性21.8% 女性10.2%
夫の家事・育児時間 (2006年)	 1:00	 2:30	 2:46	 3:21	 3:00	 3:13
家族関係政府支出の対GDP比 (2009年)(注2) ※児童手当、保育サービスなど	0.96%	3.20%	3.83%	3.76%	2.11%	0.70%

資料出所：女性の平均初婚年齢：日本は厚生労働省「人口動態統計」、フランス、スウェーデン、ドイツはEurostat／第1子出生時の母親の平均年齢：日本は厚生労働省「人口動態統計」、欧州はEurostat、米国はCenters for Disease Control and Prevention、National Center for Health Statistics Report「(2012年)／長時間労働者の割合：「ILOデータベース」／夫の家事・育児時間：Eurostat「How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men」(2004年)、Bureau of Labor Statistics of the U.S.「American Time-Use Survey Summary」(2006年)、総務省「社会生活基本調査」(2006年)／家族関係政府支出の対GDP比：OECD「Social Expenditure Database」
注1) 米国のデータは2006〜10年までの平均値 注2) 家族関係政府支出の対GDP比率は、支出のみの数値であり、税制による控除等は含まれない。

ドラ・トーザン(Dora Tauzin)
フランス・パリ生まれ。ソルボンヌ大学、パリ政治学院卒業。国連本部広報部に勤務した後、1992年からNHKテレビ「フランス語会話」に5年間レギュラー出演。慶應義塾大学講師を経て、アンステイチュ・フランセ東京、アカデミー・デュ・ヴァン講師。講演や執筆活動、テレビ出演など多方面で日仏の架け橋として活躍する。著書に『パリジェンヌ流今を楽しむ！自分革命』(2012年、河出書房新社)、『パリジェンヌのバリ20区散歩』(2013年、河出書房新社)、『フランス人は年をとるほど美しい』(2015年、大和書房)ほか多数。最新刊は「フランス人は「ママより女」」(2015年、小学館。2009年7月、日本文化の海外発信に貢献したとして文化庁から文化発信部門における長官表彰を受ける。2015年、フランスの最高勲章レジオンドヌールを受章。
http://www.doratauzin.net/



取材：文／高樹ミナ 写真／竹見脩吾

※6 5月革命
1968年5月にパリで起きた民衆の反体制運動と政府の政策転換。

※5 ヴァカンス
フランスには1936年から「ヴァカンス法」が存在する。当時は1週間の有給休暇だったが、81年にミッテラン大統領が5週間に法改正。2〜3週間まとめて休むのが一般的。

※4 PACS
Pacte Civil de Solidaritéの略。「連帯市民協約」と訳される。

人・もの・文化が交錯する 情熱の港街を歩く

～神奈川県横浜市と磯子火力発電所を訪ねて～



京浜工業地帯に立地する磯子火力発電所。

人口約372万人の大都市——神奈川県横浜市に、
J-POWER 磯子火力発電所がある。鎌倉時代から鎌倉の
外港として栄え、今も食・文化・娯楽施設と様々な観
光資源をもつ横浜の街を旅して歩いた。

作家 藤岡陽子／写真家 竹本りか

小高い丘の上で
横浜港を見渡す

柔らかな朝の陽射しが、坂道を
照らしていた。

ここは横浜市中区の山手町^{やまてちょう}。車
窓から見える景色はどこか海外の
街のようで、かつてはイギリスや
フランス軍の居留地であったことを
感じさせる。

空につき出すカトリック山手教
会のエメラルド色の屋根。米国の宣
教師が創立した女学校に通う、み
ず色のセーラーカラーに黒いりぼ
んの女学生。

山手と呼ばれるこの辺りには、
洗練された異国の風景があたりま
えのように残っている。

坂を上りきったところに、目指
していた「港の見える丘公園」が
あった。展望台に立てば横浜港を
見渡すことができ、心地よい風が

吹きぬけていく。

今から163年前の嘉永6年
(1853年)。米国から黒船に
乗ってペリーがやってきた。そして
その6年後に横浜港が開かれ、日
本と世界との貿易が始まる。

もちろんそれよりずっと昔、時
は鎌倉時代より、金沢区の「六浦^{むつら}
湊^{みなと}」は海外貿易の拠点であった。
だが安政6年(1859年)の横
浜開港によって、さらに豊かな文
化が世界各国から流れ込んできた
ことは歴史が語るところだろう。

潮風にまじって、草木の甘い香り
が鼻先を過ぎていく。展望台のすぐ
そばには「ローズガーデン」が広が
り、それぞれ優美な名前がつけられ
たピンクやオレンジ、黄や白のバラた
ちが、秋空の下に咲きほこっていた。

食糧難の時代を
支えた中華街

山手を散策した後は、山下町に
ある横浜中華街を歩く。

開港を機に来住した中国人に
よって生まれたチャイナタウンは、
今もその熱気をみせつける。

金や赤を施したきらびやかな朝陽
門——東門をくぐりぬけると、そこ



藤岡陽子 ふじおか ようこ
報知新聞社にスポーツ記者とし
て勤務した後、タンザニアに留
学。帰国後、看護師資格を取得。
2009年『いつまでも白い羽
根』で作家に。最新作は『晴れ
たらいいね』。その他の著書に
『海路』『トワイアウト』『ホイッ
スル』がある。京都在住。



横浜市金沢区から鎌倉へつながる、朝夷奈切通の途中。



三溪園内の旧燈明寺三重塔。室町時代のもので、関東地方では最古の木造の塔。



横浜中華街の中心にある関帝廟。華僑たちの商売の神として、関羽が祭られている。

1 港が見える丘公園から望む景色。山の向こうから顔を出しているのは横浜マリンタワー。2 カトリック山手教会のリア像。3 三溪園内にある旧矢筈原家住宅。岐阜県にある「バワーの御母衣（みほろ）」ダム建設に伴い移築された。4 旧矢筈原家住宅の屋根裏。5 三溪園内の臨春閣。屋敷前に優美な池をたたえる。6 三溪園に隣接する「上海横浜友好園」は、中国江南様式の庭園。7 朝夷奈切通の入口に立つ石碑。8 鎌倉大仏殿高徳院の大仏像。

昔の時間に触れると、自分がその時代に生きていたわけではないのに懐かしく、そしてもう会うことの叶わない人を思い出すのはどうしてなのだろう。

三溪園から車で10分ほど走った金沢区には「朝夷奈切通」と呼ばれる古道があり、この道が六浦湊と鎌倉を結んでいたのだと知る。

切りたった崖の狭間を自分の足で歩いてみると、行人人たちの息遣いが聞こえてきた。

るみずやなど、広々とした家屋の間一間をゆっくりと眺めていく。お膳（丸膳）、ポット（湯筒）、弁当箱（組めんば）、財布（銭入れ）、鍋（汁つき）——日常を営むささやかな道具が、まるで今日使われるかのように人の手を待ち、田舎の祖父母の家に遊びに来たかのような思いになる。

なかでも「旧矢筈原家住宅」は江戸後期の民家で、内部を見学することもできると伺い、しばしの間、江戸気分を味わった。

囲炉裏のある台所や水仕事をす

横浜の「洋」を楽しんだ後は、しっとりと「和」も堪能したい。「三溪園」は、5万3000坪の敷地をもつ日本庭園。明治末から大正の時代にかけて活躍した貿易商、原三溪氏が私財を投じてつくったものだというから驚かされる。

園内には室町から明治にかけての建物が当時のままに佇み、その時代の空気を伝えてくる。

広大な三溪園時代の空気蘇る

横浜の「洋」を楽しんだ後は、しっとりと「和」も堪能したい。「三溪園」は、5万3000坪の敷地をもつ日本庭園。明治末から大正の時代にかけて活躍した貿易商、原三溪氏が私財を投じてつくったものだというから驚かされる。

園内には室町から明治にかけての建物が当時のままに佇み、その時代の空気を伝えてくる。

戦後、食糧難の時代にも、「この界限にはなんでもある」と言われ、食糧や物資を日本人、外国人関係なく提供し続けたという中華街。そのつき抜けた活気に、山手とはまた違う外地の雰囲気味わう。



8



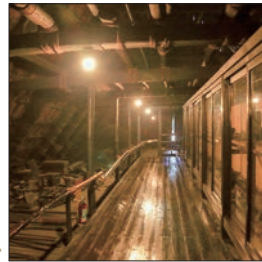
7



6



5



4



3



2



1

海の生きものとたわむれる
横浜・八景島シーパラダイス

横浜・八景島シーパラダイスの特色は、なんといっても海との距離が近いところ。施設内には海の生きものとふれあえる4つの水族館があり、広報催事担当の齊藤朋さんに案内していただいた。

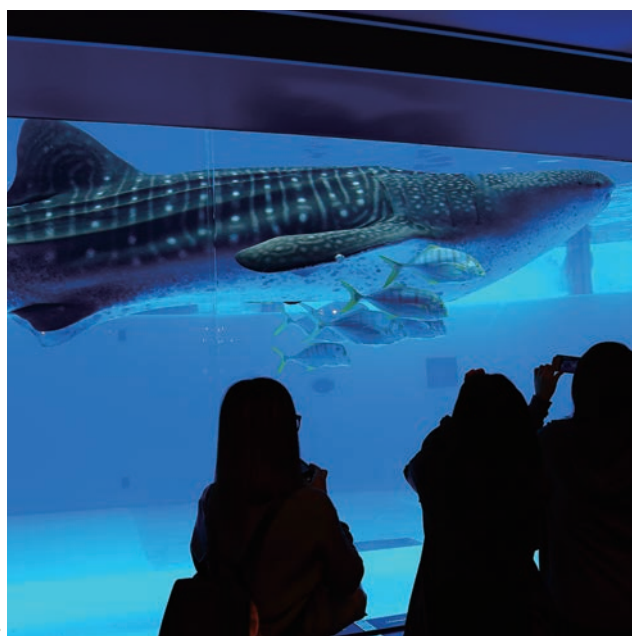
「横浜・八景島シーパラダイスは『海・島・生きもの』の特徴を生かした海のエンターテインメント島なんです。海に関するアトラクションが多いですし、海を眺められるような回転系のものを選んで設置しています」

と話してくださる齊藤さん。

横浜・八景島シーパラダイスを訪れるお客さんは年間およそ400万人で、昨年度は水族館に157万人ほどの人が足を運んだという。

「アクアミュージアム」で東日本唯一のジンベエザメを眺め、「ふれあいラグーン」でイルカやアシカにふれていると、心が癒やされていくのがわかる。夜の8時から朝の7時半まで水族館内で過ごせる「グッドモーニングドルフィンファンタジー」を催したり、5万尾の鰯が泳ぐイリュージョンを企画したり

1 横浜・八景島シーパラダイスで飼育されているジンベエザメは、最大で12mになるという。2 施設内の案内をしてくださる広報の齊藤さんと筆者。3 「ふれあいラグーン」ではアシカの仲間であるオタリアともふれあえる。4 崎陽軒の一番人気「昔ながらのシウマイ（15個人）」。5 昭和30年代に駅でシウマイを売った「シウマイ娘」のマネキン。当時の様子を説明する高井さんと筆者。6 できあがったシウマイを詰めていく「移動ロボット」。



1



2



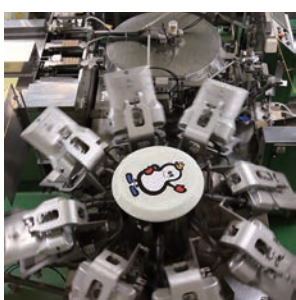
3



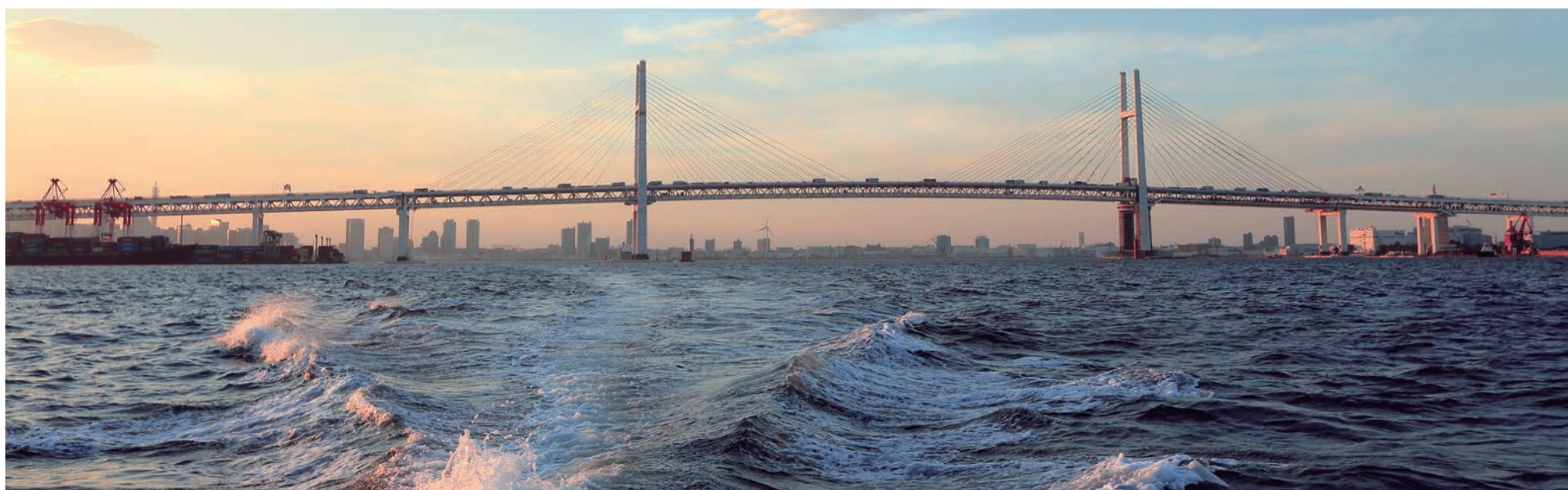
4



5



6



夕暮れの横浜ベイブリッジ。

と、イベントも盛りだくさんだ。

施設敷地内からはペリーが来航時に船を碇泊させた海域「アメリカン・アンカレッジ」を望むこともでき、ひと休みしながら遠い昔の一大事に思いを馳せるのもなかなか楽しい。

「わたしは外国が好きなので、施設がさらに発展し、国際的になればいいなと思っています。あ、これはわたし個人の思いですけど」

と微笑む齊藤さんが眩しく、国内屈指のエンターテインメント施設を担う心意気を感じた。

横浜名物 崎陽軒 日本一の「シウマイ弁当」

京都で暮らすわたしにとって、できたてはやほやの「崎陽軒のシウマイ」はなかなか手に入らない憧れの存在。今回工場見学をさせてもらえるということで、なみなみならぬ気分が入る。

「全国で展開するというよりも、地元を中心とした販売に力を入れています。明治41年（1908年）の創業以来、横浜という街に育っていたいただいた企業ですから」

会社の歴史や工場内の説明をしてくださったのは広報担当の高井未希さん。

人気の「シウマイ弁当」は神奈川、東京、千葉、埼玉、静岡のみの販売で、1日約1万9000食を売り上げ、その数はなんと日本一だという。

創業に携わった久保久行氏の前職は、横浜駅の駅長さん。駅の軒を借りて餅やサイダーなどの販売を始めたのが店の始まりだとされる。

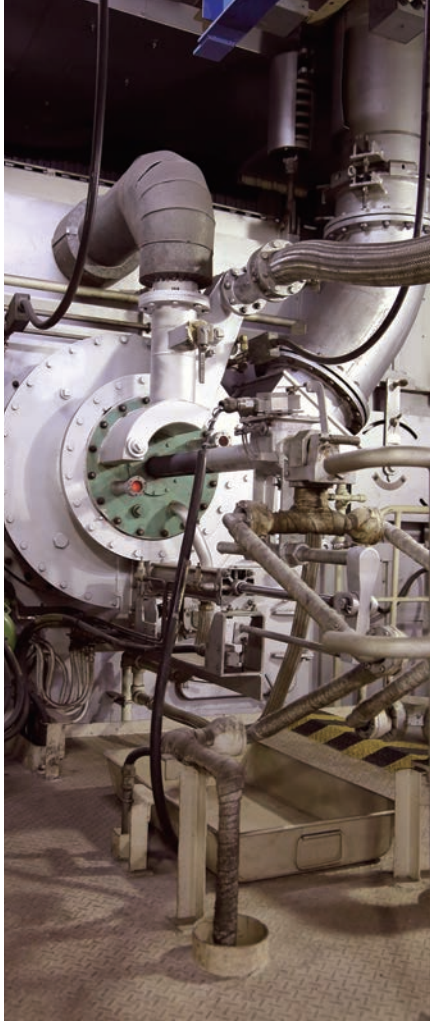
日本で初めて鉄道が開通したのは明治5年（1872年）。横浜駅と新橋駅間だったこともあり、横浜に集まる乗客たちの熱量が、崎陽軒の発展を後押ししたのだろう。

昭和25年（1950年）にはキャンペーンガールのほしりでもある「シウマイ娘」を結成し、駅のホームで相当数のシウマイを売り上げたとも知り、頬が緩む。ちなみにシウマイ娘になるには身長制限があり、158cm以上。なるほどすらりとした美人が売り歩いたシウマイなら、殿方にはよりいっそう美味だったに違いない。

崎陽軒の歩んできた歴史はそのまゝ、横浜の街の姿に重なっていく。訪れた人々をびつくりさせ、わくわくさせるなにかが、この街には備わっている。港街のおもしろさ、たくましさ、そして新しさを満喫する旅ができ、幸せだった。



磯子火力発電所
所在地：神奈川県横浜市磯子区
発電所出力：120万 kW（60万 kW × 2）
運転開始：新1号機 2002年4月
新2号機 2009年7月



海上から眺めた磯子火力発電所と石炭船。海に映る灯が、なんとも幻想的。

す。それにくわえて発電効率の高さも磯子火力発電所の特徴なんですよ」と話してくださるのはISO GOエネルギープラザの浅野勲館長。

発電所にある2台の発電機は、1台60万kWの出力があり発電効率の高さは世界最高水準を誇る。2台の発電機が1年稼働すれば、横浜市の年間使用電力量のおよそ3分の1を賄えるというのが衝撃的だった。

東京湾のコールセンターから発電所に石炭を運んでくる石炭船に乗せていただき、ジョイスティックと呼ばれる舵を握った。もちろんエンジンのかかっていないが、生まれて初めて船の操縦席に立って海を眺めた。

最新鋭の設備見学に加えて船の操縦まで体験させていただき、心に残る一日となった。

1 石炭、微粉炭、クリンカーなどのサンプル。
2 石炭船が着く海上デッキ。
3 石炭船から石炭受け入れホッパーへと石炭が運ばれる。
4 石炭貯蔵サイロ。省スペースを図り独特の形状となった（上から見ると四つ葉のクローバーに見える）。
5 微粉炭が燃えるオレンジ色の炎をのぞく筆者。
6 世界最高水準の発電効率を誇る蒸気タービン発電機。
7 活性コークスを用いた乾式脱硫装置。高効率で水をほとんど使わない。
8 発電所の運転制御を行うコントロールルーム。

都市型発電所にして世界最高水準の発電効率

Jパワーの磯子火力発電所の外観はとてもスタイリッシュで、パステルカラーの外壁を見上げ、「これが火力発電所なの？」という驚きから見学は始まった。

「発電所の屋上からは横浜ランドマークタワーが見えるんですよ。直線距離だと5・5kmくらいですから」小谷十創所長によると、都市部に建設されているがゆえの特徴的な設備が、この発電所にはいくつか備わっているという。

環境を守るため「乾式排煙脱硫装置」、「乾式排煙脱硝装置」、「電気式集じん装置」などで、発電に伴い排出される有害ガスのほとんどを除去しており、高さ200mの煙突からは煙がほとんど見えない。

さらに狭い敷地でも設置可能な日本初のタワー型ボイラーが導入されたり、クローバー型の石炭サイロを用いたり、敷地を最大限に生かせる設備が備わっていることを教えていただく。

「環境保全、敷地の最大限の活用は、この発電所の優れたところで



8



7



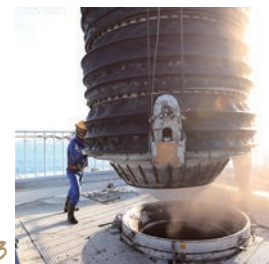
6



5



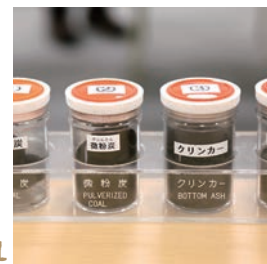
4



3



2



1

「曲によってくると変わる子どもたちの表情が楽しかった」と目を細めるのは、1993年からコンサートに参加する元東京フィルハーモニー交響楽団首席奏者の糸井正博さん。美しい音色で観客を魅了した印田さんは、「女の子がヴァイオリンを見て『きれいな』とつぶやいたのがとても印象的でした」とうれしそうだった。

その清水校長の挨拶で始まったミニコンサートは、体育館に全校生徒16人とその保護者、近隣の保育園の園児たちを集めて開催。ソプラノ歌手の江原陽子さん、ヴァイオリン奏者の印田千裕さん、フルート奏者の糸井正博さんの演奏で、「ドレミの歌」や「大きな古時計」、子どもたちに人気のアニメ作品の主題歌から、バッハやビゼーなど本格的なクラシック作品も披露された。

次に訪問したこまぐさ苑は地域密着型の特別養護老人ホームとして昨年3月にオープン。ここではクラシック作品のほかに、ミュージカル音楽やおなじみの歌謡曲も演奏された。

最初は緊張気味だったお年寄りの方々も、江原さんの透き通る歌声と軽快なトークでいつの間にか笑顔に。

江原さんが客席を回ると、感激のあまり涙を流す人もいた。「非日常の楽しみは入居者の生活に潤いをもたらしますね」と理事長の馬場敏美さん。

Jパワー上士幌電力所の伊藤信夫所長も「半世紀以上、この地で事業を続けてこられたのは地域の皆さまのおかげです」と日頃の感謝を述べた。

心温まる演奏に
お年寄りが笑顔と涙

1 演奏家と観客の距離が近いことがミニコンサートの醍醐味。2 江原さんと元気いっぱいに歌う子どもたち。3 (右から) フルート奏者の糸井正博さん、ソプラノ歌手の江原陽子さん、ヴァイオリン奏者の印田千裕さん。4 ヴァイオリンについて説明する印田さん。5 歌と演奏にうっとり聴き入るお年寄りの方々。



上士幌電力所
伊藤信夫所長(当時)

上士幌福寿協合理事長
馬場敏美さん

上士幌町立北門小学校
校長 清水弘さん

本物のクラシック音楽体験を 一生の思い出と生活の潤いに

J-POWERふれあいミニコンサート
J-POWER上士幌電力所

取材・文/高樹 ミナ 写真/竹見 脩吾

今春閉校の小学校で
思い出づくりに役

ちよつぷり高級なイメージのクラシック音楽を親しみやすい形で届けたい。そんな熱い思いの音楽家たちとJパワーがひとつになって開催する「Jパワーふれあいミニコンサート」。会社創立40周年記念として1992年に始まったこのコンサートは、全国にある各事業所の周辺地域の方々への日頃の感謝を込めて毎年開催されている。当初は各地のコンサートホールなどで行っていたが、現在は地元の学校や福祉施設等で開催する「訪問型」に力を入れている。

今回は北海道のとかち帯広空港から40kmほど北上した上士幌町立北門小学校と特別養護老人ホームこまぐさ苑を訪ねた。

北門小学校は創立90年の歴史ある学校だが、昨今の少子化の影響で今年3月に閉校となる。

「滅多に聴けないクラシックの生演奏は節目の行事にぴったりですし、子どもたちのいい思い出



1 ヘリコプターは送電ルートの曲折や起伏に沿って、電線の斜め上方20mを目安に飛んでいく。2 ヘリポートで2人1組の巡視員が前後の席に分かれて搭乗。3 上空から電線や鉄塔に異常がないか、細かなチェック項目に従って目視確認していく。4 東地域流通システムセンターは1都10県にまたがる送電ルートを管轄している。5 この日の巡視ルートは好天で視界良好、巡視中は時速60kmほどで飛ぶ。6 出発前のミーティングで飛行ルートや迂回施設などの最終確認をする。

東地域流通システムセンター
【所在地】埼玉県川越市むさし野
※撮影地 埼玉県〜群馬県



低空を飛ぶヘリコプターの座席に陣取った巡視員が、眼下の電線路にじっと目を凝らす。カメラや双眼鏡を手に、彼らが一心に見つけようとするのは電線や鉄塔など送電設備に生じかねない異変。そして、周辺で起きるかもしれない地形変化、様々な工事や地上の工作物、立木などによる影響だ。Jパワーは全国に総延長2400km

に及ぶ自社送電線を持つ。その「電気の道」が1カ所でも途切れることのないよう、送電管理部門が地上と上空からの巡視を年4回以上行って、電気の安定供給を支えている。この日は、新潟・福島の間山に展開する自社の水力発電所群と、一大電力消費地の首都圏をつなぐ送電線（只見幹線）を空から巡視した。特に

山岳豪雪地帯では、鉄塔周辺の地崩れや、強い風雪による送電障害など、予期せぬ事故が起こりやすい。一方、日に日に開発が進む都市部では、電線下でのクレーン作業や、建物が新改築された際、法令の定めた安全間隔を確認する必要がある。そうしたきめ細かなチェック項目を、学校や家畜舎などへの騒音に配慮してへ

リコプターを迂回させたりしながら、丹念に巡視していく。上空から問題箇所を発見したら、設備確認や外部折衝などを各担当部門に依頼しつつ、自らも現場に向いて保守作業に当たる。空を飛び、野山へ分け入り、鉄塔にも昇る、彼らは万能型プロフェッショナルなのだ。

取材・文／内田孝 写真／竹見脩吾



「鉄塔・電線路に異常なし」を空からチェック。

J-POWER 東地域流通システムセンター

遠く隔たった電力の生産地と消費地を結ぶ、送電ルートの守り人。ふだんは地上でコツコツ働く彼らの“天空の現場、に密着した。

■ 山間部では鉄塔周辺に地崩れなどがないか注意深くチェックする。

スタイリッシュな車椅子で 世界を変える。

パラリンピックで、株式会社オーエックスエンジニアリングの車椅子を使用した選手が獲得したメダルは、ゆうに100個を超える。同社のつくる車椅子は、その性能だけでなくデザインもスタイリッシュで他社とは一線を画す。利用者に寄り添って開発を進める同社を訪ねた。

競技用車椅子はすべてハンドメイド。アルミ溶接は、強度に関わる大切な作業だ。

スウェーデン出身。日本のマンガやアニメを知り、マンガ家になることを決意。母国でイラストレーター・マンガ家として活躍後、2011年より東京在住。日本での日常を描いた『北欧女子オーサが見つけた日本の不思議』（KADOKAWA刊）とその続巻が大人気。

漫画家

オーサ・イエークストロム

エキゾチックでクール！
日本のマンガやアニメは最高

近年、欧米での人気が高まり、今や、政府主導の「クール・ジャパン戦略」の一翼を担う重要なポップカルチャーである日本のマンガやアニメ。

スウェーデン人漫画家オーサ・イエークストロムさんも、日本のマンガやアニメに深く魅入られた一人である。子どもの頃、マンガの『犬夜叉』とテレビで見た『美少女戦士セーラームーン』に強い衝撃を受けたという※。

「スウェーデンの『コミック』と日本のマンガやアニメは、大きく違います。スウェーデンでは『コミック』といえば、子どものもの。ところが、日本のマンガやアニメには強くてカッコいい女性が主人公の作品がたくさんあります。大人でも思わず感情移入するほど、キャラクターが魅力的です」

数回の来日を経て、ついに憧れの国ニッポンに住むことを決心。日本人のコミュニケーションや敬語の使われ方など、日常の中で発見した文化の違いを四コママンガで表現し、念願の日本での漫画家デビューを果たした。

「日本では混み合う電車が嫌いな人が多いようですが、私はそれほど不快には思いません。むしろ、人と人の距離が近くて、ホッとする感じがです。日本の挨拶はお辞儀が主で、スウェー

デンは握手やハグなどふれあいの文化だからかもしれません」

日本独特の縦長の四コママンガは、とてもエキゾチックで、自分に合った魅力的な表現方法だというオーサさん。日本のマンガやアニメに影響を受けて育った少女は、その独特の表現を体得して、日本のありようや日本人の気質について世界に発信する側に立つ。まさに、文化の懸け橋である。

「マンガやアニメのファンにとって、日本は夢のような国。これからも日本でマンガを描き続けていきたいです」マンガやアニメという、北欧女子の青い目に映る最高にクールな日本文化。彼女の感じる「日本」に触れることは、私たちの文化の価値を再発見させてくれるに違いない。



『北欧女子オーサが見つけた日本の不思議』。日本への愛と、異文化体験のおもしろさを綴ったコミックエッセイ。



1. 標の上が一般用、下がテニス用などの競技用車椅子。
2. 特注で製造したマラソン併走用の車椅子。
3. 車椅子の技術を利用して開発した折りたたみ式自転車。
4. メンテナンスにも迅速に対応している。



株式会社オーエックスエンジニアリング
代表取締役社長
石井勝之さん

オートバイの製造技術で 車椅子の開発に挑戦

「創業者である石井重行が『乗りたい車椅子がない』と思ったことが始まりなんです」
こう語るのは、株式会社オーエックスエンジニアリングの社長・石井勝之さんだ。前社長の重行さんは、若い時にオートバイレースのライダーやジャーナリストとして活躍し、その後オートバイのアフターパーツ（チューニングするための部品）などを販売するバイクショップを営んでいた。ところが、1984年に新製品のオートバイの試乗中、不慮の事故により脊髄を損傷。車椅子の生活をするようになったが、既存のデザインでは外に出かけたくなるような「カッコいい」ものはなかった。冒頭の重行さんの発言は、その時のものだ。

パラリンピックで 106個のメダルを獲得

そこで重行さんは、自社の技術で車椅子を開発することを決意。オートバイのチューンナップや部品製作、塗装などのノウハウを活用して、スタイリッシュなデザインの車椅子をつくり、その改良を重ねた。当時はあくまでも「個人的プロジェクト」だったが、できあがった車椅子は周囲に好評で、「販売してみたらどうか」とアドバイスしてくれる人も現れた。90年、ドイツで行われたモーターサイクルの展示会を視察した際に、現地の記者に自身の車椅子を賞賛され事業化を決意。バイクショップを続けながら、一般用車椅子の製造販売をスタートした。

同社に転機が訪れたのは93年。オーエックスエンジニアリングは、競技用車椅子をつくることを決断する。

「この決断はまさに戦略的なものでした。デザインがいいといっても、それを数字で表すことは難しい。ところが陸上競技や球技なら、1位、2位という順位がはっきりと出ます。父は、競技用車椅子に挑戦することで、自社のブランド力を高めるとともに、技術力も高めたいと思ったのです」

いわば、自動車メーカーがF1（Formula One、自動車レースの最高峰）に挑戦するのと同じというわけだ。モーターサイクルレースを行ってきた重行さんらしい発想だ。

この年、テニス用とバスケットボール用の

が、それぞれ金メダル・銀メダルを獲得。これを機にオーエックスエンジニアリング製の車椅子を使用する選手が増え始めた。それまでは米国製の車椅子を使用する選手が多かったが、日本人選手は米国人に比べ小柄だったため、日本人の体型にフィットした同社の車椅子が評価されたのだ。

同社は車椅子の「骨格」であるメインフレームの形状に特にこだわっている。以前は円形だったフレームを「楕円形」にし、その後「おにぎり形」、「ひょうたん形」と形状を変更、上下の力だけでなく、横からの力にも対応できるように改良を加えてきた。

アトランタパラリンピック以降の7大会において、オーエックスエンジニアリング製車椅子を使用した選手が獲得したメダル数は、106個にのぼる。

「現在は、これまでのアルミ素材から、より軽くて強度のあるカーボンファイバーへの転換を進めています。カーボンファイバーは金属と違い、大きさや形を自由に変えることができないので、成型作業をいかに工夫するかが課題です」

カッコいい車椅子で 街に出かけよう！

一方、一般用車椅子の課題の1つは価格だ。病院で使用されるような一般的な車椅子の場合、使用する人は自治体から給付される助成金で購入することがほとんどだ。このため、助成金の範囲内で購入することが多く、価格



右. 同社のレース用車椅子。上から、1996年のアトランタ大会で金メダルを獲得したモデル、シドニー大会時のモデル、アテネ大会時のモデル。

左. メインフレームの形状の変遷がわかる。下から楕円形、おにぎり形、ひょうたん形、モナカ形、カーボン。

が高い同社製品はあまり注目されなかった。しかし、同社のブランド力が浸透したことで、助成金を超える分は自己負担してでも購入したいという人たちが増えてきたという。「スタイリッシュなデザインで心が高まり、積極的に外出するようになったというお客様もいらっしやいます」

また、一般用車椅子のもう1つの課題が納期だ。車椅子を利用する人たちは、1人ひとりのハンディキャップのレベルが異なるため、ほとんどがオーダーメイドだ。一方、利用者は病院を退院してからすぐに車椅子が必要となるため、注文から納品までの時間になるべく短いことが望ましい。オーエックスエンジニアリングでは、特殊な場合を除き約3週間で納品できる体制を取っており、メンテナンスにも迅速に対応している。

2020年の東京パラリンピック開催を見据え、バリアフリー歩道の整備など、車椅子の利用者がより快適に過ごすことができる街づくりの構築に向けた機運が高まっている。そのような中であって、快適性とデザイン性を重視し、使う人が楽しく、行動的に生活できる車椅子がここにある。競技用はもちろんのこと、街中においても同社の製品を目にする機会が今後増えていくかもしれない。

株式会社オーエックスエンジニアリング

1976年創業の車椅子メーカー。当初はオートバイショップだったが、創業者・石井重行氏の事故をきっかけに車椅子の製造に着手。競技用車椅子の開発にも力を入れ、競技用車椅子で国内トップシニア。

<http://www.oxgroup.co.jp>

こやなぎ ゆい

1988年、福岡県北九州市生まれ。筑波大学芸術専門学群美術専攻特別カリキュラム版画卒業。在学中から、銅版画家として本格的に活動を開始。国内各地のデパートや画廊で展示会を開催。また、中国や米国・ニューヨークでも作品を発表。立体感のある表現力が高く評価されている。現在、東京・銀座の伊東屋にて展示会「心ここに厝とともに〜2016年アーティストカレンダーとぬくもりの原画 四人展〜」を開催中（2016年2月5日まで）。
<http://yui-koyanagi.jimdo.com/>

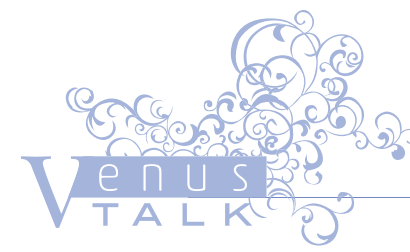
上右／「entrance key」（2013年）と題された作品。靴、鍵をモチーフとした昔の思い出にふと吸い込まれてしまいそうな、ノスタルジックな作品。銅版画以外にも、銅版画の技法を生かした油絵も人気が高い。

上中／通常、銅版画に用いられる銅板は厚さ 0.8mm だが、小柳さんは厚さ 1mm のものを使用。銅板を針で細かく彫った後、特殊な薬品に漬けて銅を溶かす。そうしてできた溝にインクを載せ、プレス機にかける。想定外の線が現れることもあり、紙をめくる時は毎回ドキドキするという。

上左／抒情的な作品に加えて、最近では、写實的に描くボタニカル・アートのシリーズも手掛けている。「出産を経験し、この世に生きるものの姿をありのままに描きたいという思いが湧いてきた」と小柳さん。花も、葉脈も、棘も克明に描く。

取材・文／ひだい ますみ

写真／竹見 脩吾



YUI KOYANAGI

ノスタルジー漂う精微な線画アート

銅版画家

小柳 優衣

14～15世紀にかけて北ヨーロッパやイタリアで起こり

ヨーロッパの貴族に、長く愛好されてきた銅版画。

繊細な線と美しい色彩による表現が魅力だが、

中でも、新進気鋭の銅版画家・小柳優衣さんの

懐かしさに包まれるような作品が、今、注目を集めている。

観る者の心を捉えて離さない作品は、いかに生まれるのか。

小柳さんの創作の源に迫る――。

豊かな線描表現と独特の色合いが見事に調和し、「時の流れ」を溜めたかのような世界。銅版画家・小柳優衣さんの作品を眺めていると、心の奥にしまわれていた古き良き記憶が懐かしくよみがえるように感じる。

「銅版画では黒のインクがよく使われますが、私は、セピア調の茶色をベースにしています。作品には『時間の流れ』を含ませたいので、人の記憶に訴えるこの色がちょうどよいのです」

小柳さんが銅版画と出会ったのは大学生の頃。油絵を学んでいたが、たまたま友人が取り組んでいた銅版画を見て、「これこそ、私の表現！」と直観し、専攻を変えるほどのめり込んだ。

「銅版画では、線の太さや深さ、強弱など、彫り方によって様々な表現ができます。その上、銅を腐食させる工程で、荒々しさも加わります。さらに、プレスの工程では、インクが紙面に盛り上がるので、最終的に紙に現れる線は独特の質感と存在感を持つのです。そ

の銅版画ならではの魅力に夢中になりました」

モチーフは、ピアノの楽譜や花、蝶といった身近なもの。それらを通して自ら感じた楽しさやうれしさなどを、詩を口ずさむように抒情的に表現する。

「私の作品が心の扉を開くカギとなり、観る人それぞれのあたたかな記憶を呼び覚まし、幸せな感覚を共有できればうれしいです」

今後も、心の向くまま筆の走るままに、作品をつくり続けたいという小柳さん。革小物やテキスタイルなどの分野で自分のブランドを立ち上げたいという夢もある。絵画であれ、雑貨であれ、小柳さんの作品に触れば心に灯がともる。真のアーティストがもたらす喜びと心の贅沢をぜひ楽しみたい。



J-POWER NEWS

J-POWER 新CM「発電会議」篇 放映開始

J-POWERでは、昨年11月22日より新TVCM「発電会議」篇を放映しています。
新CM制作の狙いと初の試みであるCM連動特設ウェブサイトについて、ご紹介します。



新CM「発電会議」篇の概要

今回新たに制作したCMの狙いは、電気事業を取り巻く環境が大きく変化する中で、J-POWERの事業内容と企業姿勢を改めて発信することです。発電に関わる5つの事業を擬人化することで、視聴者の方に親近感をお持ちいただけるようにしています。熱く語り合う会議を通して、J-POWERが身近にある電気をつくっていることを伝える「使命」篇、J-POWERの低炭素化の取り組みをPRする「環境」篇の2本を制作しました。



当社が提供しているTV番組

- ・日本テレビ「音のソノリティ」毎週日曜日20時54分～（関東ローカル）
- ・BS日テレ「音のソノリティ」毎週水曜日20時54分～（日本テレビの再放送）
- ・BS-TBS「週刊報道 Bizストリート」毎週土曜日21時～

以前より放映しているCM「プロジェクション」篇は、引き続き以下の番組でご覧いただけます。

- ・BS-TBS「極上のクルーズ紀行」毎週水曜日21時～

連動ウェブサイト「発電会議。」を開設しました。

CMとウェブサイトを組み合わせた新たな広報活動として、特設ウェブサイト「発電会議。」を当社ホームページに開設しました。CMで伝えきれなかった内容を盛り込んだウェブ限定コンテンツを、読者の皆様もぜひご覧ください。



CM連動特設ウェブサイト「発電会議。」(当社HP内)

<http://www.jpowers.co.jp/hatsudenkaigi/>



こじま・なお 1986年東京都出身。2004年角川短歌賞受賞。2007年第一歌集『乱反射』により現代短歌新人賞、駿河梅花文学賞受賞。2011年、第二歌集『サリンジャーは死んでしまった』刊行。すぎなみ詩歌館短歌講座「やさしい短歌」講師。

「音」のソノリティ」を詠む

—— 寒立馬 ——

歌人 小島 なお



J-POWERの大間原子力建設所がある青森県下北半島の尻屋崎周辺に放牧されている寒立馬。

写真：高橋よしてる／アフロ

冬
天
に
吹
雪
ひ
び
け
り
寒
立
馬
三
十
頭
の
い
の
ち
ひ
び
け
り

大 粒の雪が斜めに吹き込む雪原を、きしりきしりと踏みしめてゆく蹄の音。背や鬣に積もった雪を払い落とす身震いの音。雪の下に埋もれた枯草を噛む音。白い蒸気が上がる荒い鼻息の音。

下北半島の突端、青森県・東通村。この本州最北東端に位置する尻屋崎に約30頭の寒立馬が放牧されている。

「寒立」とはマタギ（狩人）言葉で、冬のカモシカが山地の高いところで長い時間じっと動かず立ち尽くす様子を表す。寒気と粗食に耐え、持久力に富む農用馬であったことに因んで付けられた名前だ。寒立馬とその生息地は青森県の天然記念物に指定されている。

冬空に吹雪の音がひび渡る。その中に生きる寒立馬一頭一頭の命もまた力強くひびいていくのだ。

※「音のソノリティ」第17回放映（寒立馬）を観て詠んでいただいたものです。

音のソノリティ

J-POWERは、首都圏で放送中のミニ枠テレビ番組「音のソノリティ～世界でたった一つの音～」を提供しています。「ソノリティ」とは、フランス語の音楽用語で「鳴り響き」の意味。日本の自然風景から、その場所できくことのできない音を紹介しています。

日本テレビ
毎週日曜日 20:54～（関東ローカル）
BS日テレ
毎週水曜日 20:54～（再放送）

平成27年度第2四半期決算について

J-POWERグループの平成27年度第2四半期決算は、売上高4,000億円、経常利益500億円、親会社株主に帰属する四半期純利益367億円となりました。

● 経営成績

(1) 収益

卸電気事業の火力発電所利用率が前年同期を上回ったことや、タイ国ノンセンガス火力発電所（1号系列：平成26年6月、2号系列：平成26年12月）が期間を通して稼働したこと、および同国ウタイガス火力発電所1号系列の営業運転開始（平成27年6月）等により、売上高（営業収益）は、前年同期に対し14.7%増加の4,000億円となりました。これに営業外収益を加えた四半期経常収益は、前年同期に対し14.5%増加の4,114億円となりました。

(2) 費用

卸電気事業の火力発電所利用率が前年同期を上回ったことや、ノンセンガス火力発電所が期間を通して稼働したこ

と、およびウタイガス火力発電所1号系列の営業運転開始に伴う燃料費の増加等により、営業費用は前年同期に対し9.1%増加の3,412億円となりました。これに営業外費用を加えた四半期経常費用は、前年同期に対し10.5%増加の3,613億円となりました。

(3) 利益

経常利益は前年同期に対し54.4%増加の500億円となり、法人税等を差し引いた親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期に対し53.4%増加の367億円となりました。

● 財政状態

(1) 資産の部

資産については、流動資産の減少等

により、前年度末から373億円減少し2兆6,218億円となりました。

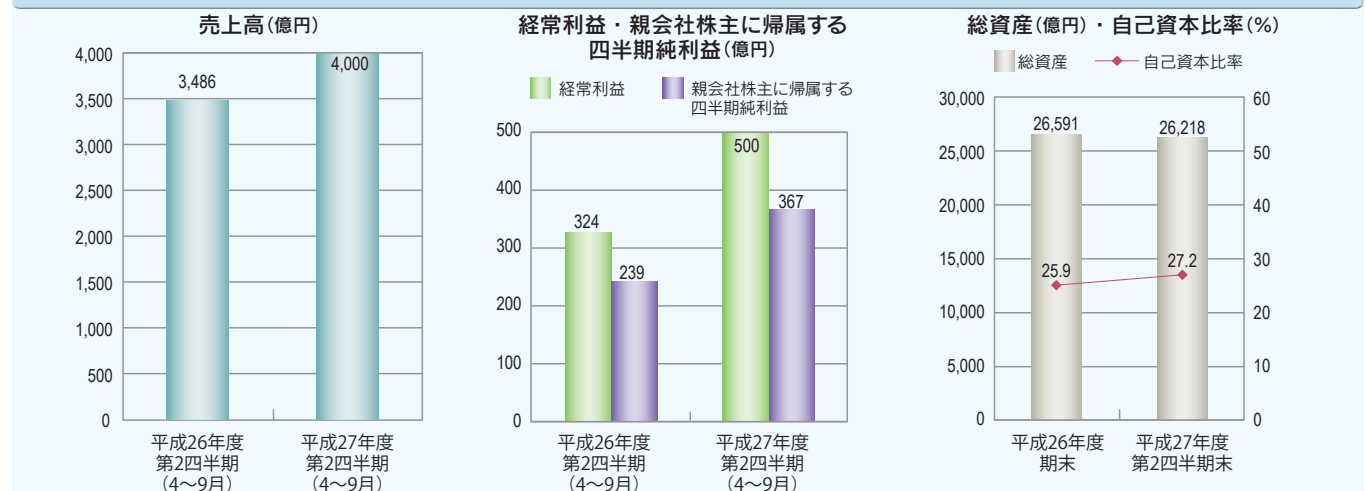
(2) 負債の部

負債については、前年度末から642億円減少し1兆8,986億円となりました。このうち、有利子負債額は前年度末から711億円減少し1兆6,525億円となりました。なお、有利子負債額のうち3,333億円（うち海外事業3,316億円）はノンリコースローン（責任財産限定特約付借入金）です。

(3) 純資産の部

純資産については、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等により、前年度末から268億円増加し7,231億円となり、自己資本比率は、前年度末の25.9%から27.2%となりました。

● 経営指標（連結）



タイ国・ウタイガス火力発電所 2号系列の営業運転開始について ～タイ国電力供給力に占める当社IPP持分出力が約1割、海外IPP持分出力約750万kWに～

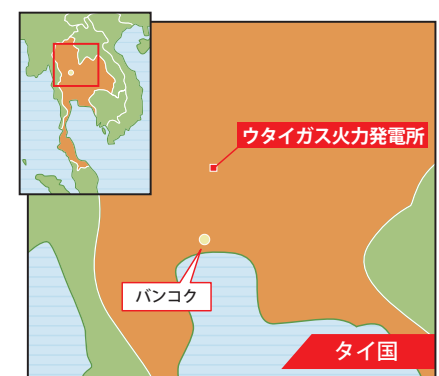
J-POWERがタイ国において参画しているウタイガス火力発電所2号系列（出力80万kW、以下UT2）が、昨年12月1日に営業運転を開始しました。

ウタイガス火力発電所は、2007年の新規IPP入札において落札した、ノンセン地点に続く、J-POWERがタイ国で参画する最大のIPP事業であり、J-POWERのタイ国現地事業会社Gulf JP UT社（Jパワーの出資比率90%）を通じて開発を進めてきたものです。2012年10月24日にプロジェクトファイナンス契約を締結し、同年11月より本格的な建設工事を実施してきました。

営業運転開始後は、電力購入契約に基づきタイ国電力公社（EGAT）に25年間にわたり電力を卸販売していきます。

UT2の営業運転開始により、タイ国の電力供給力に占めるJ-POWERのIPPプロジェクトの持分出力（約450万kW）は約1割を占めることになりました。また、J-POWERが参画する営業運転中の海外IPPプロジェクトは出力合計約2,040万kW（持分出力約750万kW）となりました。

J-POWERは、今後ともタイ国をはじめ海外発電事業を積極的に推進してまいります。



写真左奥：1号系列、写真手前：2号系列

タイ国における営業運転中のプロジェクト概要					
プロジェクト名	位置	発電方式	出力	出資比率	運転開始
1 ロイエット	ロイエット県	バイオマス（モミ殻）	1万kW	24.7%	2003年5月
2 ラヨン	ラヨン県	ガス（コンバインドサイクル）*1	11.2万kW	20%	2003年1月
3 ガルフ・コジェネ（カエンコイ）	サラブリ県		11万kW	49%	1998年9月
4 サムットプラカン	サムットプラカン県		11.7万kW	49%	1999年8月
5 ノン・ケー	サラブリ県		12万kW	49%	2000年10月
6 ヤラ	ヤラ県	バイオマス（ゴム木廃材）	2万kW	49%	2006年11月
7 カエンコイ2	サラブリ県	ガス（コンバインドサイクル）	146.8万kW	49%	2007年5月
8 KP1*2	サラブリ県	ガス（コンバインドサイクル）*1	11万kW	90%	2013年1月
9 KP2*2	サラブリ県		11万kW	90%	2013年2月
10 TLC*2	サラブリ県		11万kW	90%	2013年3月
11 NNK*2	チェチェンサオ県		11万kW	90%	2013年4月
12 NLL*2	ラヨン県		12万kW	67.5%	2013年5月
13 CRN*2	パトゥムタニ県		11万kW	90%	2013年7月
14 NK2*2	サラブリ県		12万kW	90%	2013年10月
15 ノンセン	サラブリ県	ガス（コンバインドサイクル）	1号：80万kW	90%	2014年6月
			2号：80万kW		2014年12月
16 ウタイ	アユタヤ県		1号：80万kW	90%	2015年6月
			2号：80万kW		2015年12月

*1 電気とともに、発電によって発生した排熱を有効利用するコジェネレーション設備

*2 2013年中に運転を開始した7SPPプロジェクト

2016年1月15日発行

発行：電源開発株式会社 〒104-8165 東京都中央区銀座6-15-1 TEL.03-3546-2211（代表）

URL：http://www.jp-power.co.jp/ e-mail：webmaster@jp-power.co.jp

編集・発行人：広報室長 池田 正昭（非売品）

